

平成 1 7 年 度 第 8 回 定 例 会

八王子市教育委員会会議録

日 時 平成 1 7 年 7 月 2 7 日 (水) 午 前 9 時 0 2 分

場 所 八王子市教育センター第 3 研修室

第 8 回定例会議事日程

- 1 日 時 平成 1 7 年 7 月 2 7 日 (水) 午前 9 時
 - 2 場 所 教育センター 3 階 第 3 研修室
 - 3 会議に付すべき事件
追加議事日程 第 1 7 号議案 平成 1 7 年度 9 月補正予算の調製依頼について
 - 4 協 議 事 項
平成 1 8 年度八王子市立中学校使用教科用図書の採択について
 - 5 報 告 事 項
学校教育における八王子市環境教育基本方針について
- その他報告

八王子市教育委員会

出席委員（4名）

委員 長	（3番）	名取 龍藏
委員	（1番）	小田原 榮
委員	（4番）	齋藤 健児
委員	（5番）	石川 和昭

欠席委員（1名）

委員	（2番）	細野 助博
----	------	-------

教育委員会事務局

学校教育部 長	坂本 誠
学校教育部 参事 兼指導室長事務取扱 （教職員人事・指導担当）	岡本 昌己
教育総務課 長	望月 正人
学校教育部 主幹 （企画調整担当）	鎌田 晴義
施設整備課 長	穂坂 敏明
学 事 課 長	小泉 和男
学校教育部 主幹 （学区等調整担当兼特別 支援教育・指導事務担当）	小海 清秀
指導室 指導主事	朴木 一史
生涯学習スポーツ部長	菊谷 文男
生涯学習スポーツ部参事 （図書館担当） 兼図書館長事務取扱	西野 栄男
生涯学習スポーツ部主幹 （企画調整担当） 兼生涯学習総務課長	米山 満明
スポーツ振興課 長	山本 保仁
学 習 支 援 課 長	高橋 敏夫

文 化 財 課 長 佐 藤 広

生涯学習スポーツ部主幹
(体 育 館 担 当) 福 田 隆 一

生涯学習スポーツ部主幹
(図 書 館 担 当) 柳 田 実

生涯学習スポーツ部主幹
(図 書 館 担 当) 武 田 ヒサ工

生涯学習スポーツ部主幹
(図 書 館 担 当) 石 井 里 実

生涯学習スポーツ部主幹
(こども科学館担当) 森 文 男

指 導 室 指 導 主 事 布 宮 英 明

中学校使用教科用図書検討委員会

委 員 村 田 禮 子

委 員 山 崎 盛 久

委 員 倉 田 茂

委 員 新 藤 美知子

委 員 齋 藤 博 志

委 員 入 谷 弘

委 員 島 本 環 樹

事務局職員出席者

教 育 総 務 課 主 査 志 萱 龍一郎

担 当 者 後 藤 浩 之

担 当 者 石 川 暢 人

【午前9時02分開会】

名取委員長 本日の委員の出席は4名でありますので、本日の委員会は有効に成立いたしました。

これより平成17年度第8回定例会を開会いたします。

日程に入ります前に、本日の会議録署名員の指名をいたします。

本日の会議録署名員は 1番 小田原榮委員 を指名します。

なお、本日追加日程の提出がありましたが、これにつきましても議題といたしたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

名取委員長 全員異議ないものと認めます。

それでは、日程に従いまして進行いたします。

名取委員長 追加日程、第17号議案 平成17年度 9月補正予算の調製についてを議題に供します。

本案について、事務局から説明願います。

山本スポーツ振興課長 それでは、お手元の資料に基づきまして説明をさせていただきます。

富士森公園のフットサルコートを整備を、新年度予算では9,000万円の計上で予定していたところでございますが、整備手法を公設民営から民設民営に変更することに伴い、不用となる予算を整理するとともに、必要な予算を措置するものでございます。

上の表でいきますと、補正前9,000万円であったものを、今回補正後2,997万円とすることで、マイナスの6,003万円の減額補正という形で対応したいと考えております。

表の下でございますが、不用となる予算が、今お話ししました6,407万5,000円、内容は、測量及び実施設計の委託料、また、プール等解体撤去及び造成工事、防球ネット等コート整備工事費が不用となりまして、新たに必要となるものについては、廃棄物処理運搬の委託、また、テニスコート関連の管理棟等のリース料、そして架設プレハブの電源等の工事費、そのほか給水工事費が必要となります。

なお、今回解体撤去工事分について、それに合わせて2,842万3,000円を計上するものでございます。

以上でございます。

名取委員長　　ただいま事務局の説明は終わりました。

本案について、御質疑はございますか。

齋藤委員　　八王子市全体のことから考えますと、予算が不用になったということは、これはいいことだというふうに受けとめていいことだと思うんですけども、ただ、一般の市民感覚でお話しさせていただきますと、民設民営になったことによる、不用になった予算と新たに必要になった予算の線引き、具体的に、この工事は民設になったから委託に持っていける、この部分が新たに増えるというところが少し理解しにくいかなという感じがしますね。

山本スポーツ振興課長　　新たに必要になった経費のうち、テニスコート関連仮設プレハブリース料につきましては、既存のプールを解体するに当たって、管理棟もあわせて解体をするということですが、その管理棟の中にございますテニスコートの管理人の入っている部屋もあわせて解体するために、その管理事務所にかわるものをプレハブでリースをする、そういうこととございます。

齋藤委員　　いずれにしても、プロの事務局の方々が、よく承知しながらされていらっしゃるのだと思いますので、大切なお金ですので、むだのないようによろしく願いいたします。

名取委員長　　ほかに御質疑はございませんか。

本案について御意見はございませんか。よろしいですか。

ほかに御意見もないようでありますので、お諮りいたします。

ただいま議題となっております第17号議案については、提案説明のように決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

名取委員長　　異議ないものと認めます。

よって第17号議案については、そのように決定することにいたしました。

名取委員長　　次に、協議事項、平成18年度八王子市立中学校使用教科用図書の採択についてを議題に供します。

本日の協議は、前回に引き続き、8種目について、種目ごとに検討委員会の報告説明を受け、それに関して質疑等を行い、予定している種目の協議終了後、各委員の無記名による意見集約という順序で行いたいと思います。

本日、協議を行う種目は、国語科（国語・書写）、社会科（地理・地図・歴史・公民）、美

術、英語の8種目を予定しております。

それでは、意見集約のための記入用紙を配付願います。

まず国語について、検討委員会から報告願います。

村田国語（書写）調査部会部長 国語部会からの報告をいたします。

調査の観点1、内容について。東京書籍、本市の生徒の全体的な学力から見ると、少し高度な内容で作成されています。3社が2学年で、また、1社が3学年で扱っている「枕草子」を1学年で扱っており、内容や作者、また、時代について等、学習を深めるということから考えると、本市では2学年で教えたいというのが一致した意見でした。あとは、調査表記入のとおりです。

学校図書、「話す・聞く」の単元で課題の提示が高度で、ある程度以上の学力の生徒でないと、考えてみようや何々してみようという指示の内容を十分に達成できるとは思えないというのが、大方の意見でした。古典では、「枕草子」は掲載されていません。

三省堂、1年の読み物教材で、他4社で掲載されている文学作品が採用されておらず、採用されている作品では、他4社の作品で読み取らせたい内容にまで至っていない。また、2年生の教材でも、読みごたえという点でやや不足しているというのが、一致した意見でした。

教育出版、「伝え合う言葉」と教科書にタイトルがつけられているとおり、全般にわたり、その趣旨が貫かれていました。表紙、裏表紙の見開きが、他4社が写真、あるいは写真版のところに詩が載っている社がありますが、教育出版は、イラストで、テーマを設けた記載になっています。また、1年生の作品で、「じゅうたんの上的カブトムシ」が入っているのですが、国語の教科書の教材としてふさわしいかどうかは、意見が分かれたところです。

光村図書、本市の中学生に読ませたい作品「坊ちゃん」が1年生に、また、「高瀬舟」が3学年で掲載されています。また、「読むこと」の領域で、生徒たちに読んでほしい作品、読ませて考えさせたい作品が充実しているというのが、一致した意見でした。

2点目、構成及び分量。分量は、総ページ数が書いてありますが、少し開きがあります。学校図書が、教科書が小さいA5判ということで、ページ数が多くなっています。各社とも、各学年にふさわしい分量と思われます。

東京書籍、報告書のとおりです。「聞くこと」の領域に重点をかけた構成である。

学校図書、「深める」、「広げる」が単元ごとに出されています。

三省堂、資料編に各学年約90ページを当て、充実させています。また、各教材での作者

のまとめを、後ろで写真入りで紹介しています。

教育出版、最初の題材以降の大単元の冒頭に、古典教材が配置されています。また、学習のねらいが折り込みページになっていて、その裏が学習記録シートになっているのが目新しいところです。

光村図書、後半部分に「学習を広げる」が各学年55ページ前後あり、話す、書く、読む、言葉、発展、漢字と充実しています。

3点目、表記及び表現。東京書籍です。報告書にもありますが、多様な読みの交流という視点からいきますと、1学年の「碑」、2学年の「小さな労働者」、「神奈川沖浪裏」、「考えるイルカ」などの教材では、もっと成長してからのほうがいいのではないかと、論理的にとらえてどうかという点で、とらえにくいという声がありました。また、2学年の作品に、1ページ全部挿絵というページがあり、これだけ大きいものが必要かという声も出ています。

学校図書、他4社がB5判と大型化したのですが、学校図書は従来どおりのA5判です。現代の生徒の文字文化から見ると、文字が他社に比べ小さいのが気になりました。また、活字に特徴が見られ、特に平仮名で読みにくいものがあります。挿絵でも、別のほうがいい、挿絵でもって印象をつけられ過ぎるのではないかとされるものがありました。

三省堂、報告書のとおりです。発展的教材を除き、上下二段の形式となっております。

教育出版、作品の中の挿絵の入れ方、例えば1年の「オツベルと象」を初め、他の教材でも写真が多用されていて、文章の読みに邪魔という感があります。また、1年次の「竹取物語」のページ全体に色がうっすら印刷されていて、文字を読むのに邪魔じゃないかなと思われる単元があります。また、全体的に多様な色彩が使われています。

光村図書、報告書にもありますが、1学年用には大きな活字が用いられ、1年生で大体1ページ17行です。学年進行でやや小さ目の活字が用いられています。20～22行で、配慮が感じられました。

4点目、使用上の便宜。東京書籍、2学年の「説得、意見を書こう」のページは、ページの構成が難し過ぎると思われます。また、2学年の詩で、「私が一番きれいだったとき」が掲載されているのですが、見開き掲載で2段になっていて、右のページを上下、左のページを上下と進んでいくのですが、見開きを開けたときに、右ページの上から左ページの上へと目が移っていき、載せ方としては不親切で、読みにくさが感じられました。

学校図書、活字が細く、字が薄く感じられます。単元だけが、各学年1～5の大単元の後、

6番目に「総合」となっています。総合的な学習の時間に発展的に生かすようにという配慮とありますが、国語の教科書に独立して「総合」という単元が必要かどうか、意見が分されました。また、最後の単元というのは、1学年、2学年では、その学校の都合のいい時期に学習できるという配慮なのかなと思われます。

三省堂、領域別の目次が示されていて、学びの中身がはっきりと読み取ることができます。

教育出版、目次の組み立てが、「基本」と「補充発展」と「言語知識」という構成になっています。基本は、「読む」、「話す」、「聞く」、「書く」の順で並べてあり、従来の単元だけと違っていています。使用用紙が、他4社が薄いクリーム系なのに対し、教育出版は白色で、目が疲れするという印象があります。

光村図書、報告書のとおりです。領域別「学習の計画を立てよう」が目次に加えられており、生徒への意識づけという点での配慮があります。

5点目の重点調査項目に移ります。(1)読み物教材について。東京書籍、古典的作品ではなく、現代の作家、例えば歌人の俵万智の文章、重松清、辻仁成の作品がとられています。いつの時代も作品は新しいものがあるので、古典だからいい、新しいものだからどうということではありません。

学校図書、文学的文章では、猪口邦子、田口ランディ、岡本夏木、それから説明的文章では、能登路雅子、詩では辻仁成など、新しい方の作品を数多くそろえています。先ほども言いましたが、学校図書は、「総合」という単元で、総合的な学習の時間に生かせる作品がとられています。

三省堂、資料編に文学作品が多くとられています。内容的には、あまり難しくないものが多いのが特徴です。

教育出版、説明的文章で、各学年とも総合的な学習の時間に関連づけられる作品がとられています。

光村図書、報告書のとおりで、本市の生徒に読ませたい文学的教材が多くとられています。

そこに書きました読み物教材のトータルの数の割合ですが、東京書籍、文学作品12、説明的文章14、学校図書、文学的作品23、説明的作品13、三省堂、文学的作品10、説明的作品10、教育出版、文学的作品9、説明的作品11、光村図書、文学的作品22、説明的作品8作品でした。

重点項目の(2)漢字学習について。東京書籍、各單元ごとに新出漢字の音・訓読みと熟

語 1 例が示されており、生徒が使いやすい。「漢字道場」として各学年に 5 カ所掲載があります。内容は、1 学年で漢和辞典の使い方、画数など、2 学年で同訓異義、同音異義など、3 学年で紛らわしい漢字、四字熟語、熟字訓などです。また、資料編に各学年とも新出漢字一覧が筆順つきで載っています。

学校図書、各单元ごとに新出漢字の音・訓読みと熟語が大体 2 例ずつで示されており、生徒が使いやすい。漢字は、1 学年は「漢字を見抜く」、2 学年「語を見抜く」、3 学年「文字を見抜く」というタイトルで各 5 カ所掲載があります。内容は、1 学年漢字の成り立ちや声符による漢字の読み、部首による漢字の意など、2 学年が語の読み方、熟字訓、湯桶読み、重箱読みなど、3 学年が表意・表音文字、常用漢字表など、内容はやや専門的過ぎるのかなという点も見受けられました。

三省堂、单元ごとに新出漢字は載っていますが、そこには読みだけで、「後半の漢字の広場へ」という指示になっています。後半の資料編に「漢字の広場」があり、1・2 学年で 14 ページずつ、3 学年で 12 ページあり、1 学年では字体、画数、筆順、部首など、2 学年で熟語の構成、熟語の意味など、3 学年で形、意味と読み、漢字四字熟語などです。また、資料編の後ろでは、その学年で学ぶ漢字字典として、筆順、使い方が載っています。

教育出版、各单元別には新出漢字の掲載はなく、後半のその学年で学習した漢字でまとめて出ており、「漢字工房」、各学年で 1 から 26 あるのですが、その「漢字工房」で、新出したページが記されています。生徒にとって、新出漢字という意識づけがしにくいのかなと思われる。また、常用漢字一覧表が、各学年とも同じものが 24 ページにわたり載せられています。

光村図書、各单元とも教材ごとに新出漢字の音・訓読みと使用例が主に熟語で示されていて、生徒が使いやすい。また、各学年漢字のコーナーが 6 カ所、それぞれ 1 ページずつであり、1 年生では漢字の組み立てと部首、混同しやすい漢字、2 学年では同じ訓を持つ漢字、熟語の成り立ち、3 学年では形に着目して漢字を考えるなどが載っています。

重点調査項目の(3)読書指導(「読書のまち八王子」に関連して)。東京書籍、読書を楽しもうということで、各学年 2 ページずつ記載があります。また、「読書の窓」で各学年 33 冊ずつ、表紙の縮小写真を載せ、粗筋や内容について一言ずつで紹介しています。後ろに「読書のすすめ」という文章が各 1 ページずつ、また、各学年で紹介している 33 冊をまとめて 99 冊の本の一覧が載っています。

学校図書は、報告書のとおりです。

三省堂は、特徴的なのは、「小さな図書館へようこそ」というのが6ページにわたり各学年で50冊ずつ紹介されていて、内容別に言葉、心、科学、冒険、命などにまとめて紹介されているところです。

教育出版、主たる読み物の単元の後ろの「手引き」で、3冊ずつ紹介しています。また、「こみち(読書)」というコーナーで5冊の本の紹介をしています。また、「データベースコラム」で読書関連のページがあり、1年生では「感想文」、2年生では「読書記録」、3年生では「読書計画を立てよう」というページがありますし、それに作品紹介で、簡単な内容つきで紹介されています。先ほどの「感想文」、「読書記録」、「読書計画」で言えば、学年進行で発展させられるようになっているのかなと思います。

光村図書、各学年で見開きで2ページずつ、各11冊の表紙の縮小写真と短い粗筋、内容をつけたものが、各3カ所ですか、紹介されています。資料編にジャンル別、ノンフィクションに作品がアイウエオ順に載っています。1年生では、「読書記録、感想文」、2年生では「読書記録を工夫する」、3年生は「読書紹介をする」ということで、紹介カードのつくり方、また、図書館の利用、情報を検索する等、丁寧な掲載があります。

国語部からは、以上です。

名取委員長　　ただいま検討委員会の報告は終わりました。

国語について御質疑はございますか。

小田原委員　　きょう出席されていない細野さんからの質問が何かあれば、まず言っていて、その説明を受けて、それに補充するところがあれば、質問したいというふうに思います。

石川教育長　　きょう、細野先生は本務の関係でどうしても出られないということで、事務局のほうに幾つかの質問事項をいただいています。国語についてもありますので、私のほうで、それを、かわって質問させていただきます。

細野先生からは、「日本語を学ぶことの楽しさや、日本語を母国語にすることに誇りを持つように教材を工夫している教科書があるのかどうか、その辺があるのであれば、どこにそういうことがあるか示していただきたい」というようなことを伺っています。

村田国語(書写)調査部会部長　　日本語を学ぶ楽しさという点で言いますと、説明的文章や文学的文章よりも、私は、主に詩とか、短歌とか、俳句とか、そういうところに子供たちは、

喜び、学びの楽しさを感じてくれるのではないかなと思います。その作品は、すべての教科書、5社とも採用されております。

石川教育長 誇りについては。

村田国語（書写）調査部会部長 難しいですね、日本語の誇りについては、もちろん、国語という教科を通してそうだと思いますが、私ども中学校生活全体で、そういうことを意識して教諭が生活をさせていると思っております。

また、日本語を誇りというのと少し違うかもしれませんが、主に国語では、丁寧な言葉遣いが、優しさも含めた意味ですが、自分自身の人間性をどうやって、その豊かな人間性から出てくるということで、丁寧な言葉遣いが大切なのではないかと思っております。そして、それが、なおかつ誇りにつなげられたらいいなと、私の思いでございます。答えになっていないかもしれませんが。

名取委員長 ありがとうございます。

ほかに御質疑はございますか。

齋藤委員 調査委員会の皆様、ほんとうに御苦労さまでございます。いろいろとお時間をたくさん使ったと思います。私も、個人的ではありますが、今回、中学校の教科書を読ませていただいて、我々の現役のころとほんとうに変わったなという、まず第一の印象です。とってもきれいになってきましたし。最初は嫌々ながら読み始めるんですけども、結構はまっちゃって、おもしろくて、いろいろと読ませていただきました。

1つ少しお伺いしたいことがございます。調査委員会の中の雰囲気はまず最初にお伺いしたいんですが、他の教科、例えば理科あたりに比べると、やはり学習指導要領に基づいて、どの教科書も大体章立てというのかな、進み方ですね、1学年では大体こういう形の進み方、2学年ではこうという形の進み方といった具合に、大体同じような進み方がされている中で、国語というのは、ほんとうにオリジナリティーがやっぱり各々あるようで、目次を見比べてみても、どの社もみんなバラエティーに富んでいる。それだけに、私なんかは非常に読みごたえもあると同時に少し苦労もしながら読んだんですが、調査委員会のほうではその辺りどういった意見があったんでしょうか。もちろん、具体的にどの社がいいのかというのを私聞いているわけではないんですが、比較的絞られてきたのか、最終的にもやはり意見が割れたかというあたりが、少し興味があるんですね。やはり、先生方にも、当然十人十色でしょうから、いろいろな御意見があったと思うんですが、他の科の報告書などを読んでいると、

大体このあたりで意見がまとまってきたのかなというのが読み取れるようなところもあるんですが、国語はなかなか御苦労したんじゃないかなということを想像するんです。そのあたりの調査委員会の内容は、雰囲気はどうだったでしょうか。

村田国語（書写）調査部会部長　調査委員は、市内38校の中から8名の教諭と、私ども部長、副部長の10名で構成されました。初めはまだ各校からの調査用紙が上がってきていませんので、自分たちで5社を読んで、結構フリーに意見を交わしていました。どの会社も、国語の教員として教えた教材はほんとうに入っています。では、使いやすさからどうだろうか、そんな点からいくと、やはり従来の目次立てをしてある、そして、なおかつ領域別、観点別のものが載せてあるものが好ましいんじゃないだろうか、そんな雰囲気は感じました。傾向としては、やはり、ある程度の先生方が「これはいいよね」とおっしゃっても、「いや、私はこれがいいと思います」というような雰囲気、委員会として絶対これですねという絞り方はもちろんしませんでしたし、各社の特徴ということでしたので、「傾向はありますが」というところです。

斎藤委員　かなり調査会のほうも御苦労なさったというのは、今のお話でちょっとわかるような気もするんですが、実はこの報告書をいただいて、何度も熟読させていただきましたけれども、ちょっとわかりにくいなというようなところが何点かあったんです。やはり今の村田先生の御説明が大変わかりやすく、いろいろとチェックするところがあって、質問しようと思ったことが、今の御説明で結構納得できたところもありなんですけれども、この5社の中で、具体的に三省堂が、本編と資料編という形で、大きく2つに分けている構成をしているんですが、このあたりについては、委員会のほうから、何か御指摘とか、御意見はありましたでしょうか。

村田国語（書写）調査部会部長　特別そういうことでは議論になりませんでした。使い方として、この単元をやっているときに、一番の資料編のこの作品が入れられる。それは、各人の先生方が思われたところではないかなと思います。ただ、そういう突っ込んだところまでは議論しておりませんので。

小田原委員　関連してなんですが、まず目次のお話が出ましたけれども、観点別目次があったほうがいいのかということなんです。

村田国語（書写）調査部会部長　従来であれば、教科書の構成順の目次だけでよかったわけなんですけれども、観点別とか、領域別という目次があるほうが、子供たちにとって、この単元

で何を学ぶか、何を身につけるのが具体的になるだろうというのが、大方のお考えでした。

小田原委員　そうすると、例えば東京書籍と学校図書が、観点別がないというふうに報告されているわけなんですけど、東京書籍の下の欄にあるのは何なんですか。

村田国語（書写）調査部会部長　主な内容と目標ということで、ありました。申しわけございません。

小田原委員　それがあろう方がいいのかどうかという点については、あった方がいいというぐらいでいいんですか。その判断をする場合に、領域別の数字が示されているというのと、観点別目次がないという2つのところで示されているんですが。

村田国語（書写）調査部会部長　そのページがあるないということは、教科書採択に大きくかわる内容ではないと思います。

小田原委員　では、次の質問ですが、漢字学習のところもかなり重視しているわけですが、それぞれが特徴を持った編集をしているというふうに思いますけれども、重点調査の観点は、どのような工夫をしているかというところが問われているというふうに思うんですが、そのどのような工夫をしているかという点で、先ほどのお話だと、「使いやすさ」ということがあると思うんですが、その点でいかがですか。

村田国語（書写）調査部会部長　各社とも、それぞれに工夫されています。先ほど報告の内容で読み上げたとおりなんですけど、どのように子供たちに定着させるために授業を進めるかというのは、各校、違いますので、その学校、その学年で受け持って、その子供たちを見て、国語科の教諭が、臨機に判断していく。漢字のページがあるというのは、授業の中で資料として使えますし、また、子供が家庭学習でも使えますけれども、授業の中でどう使うかと言われたときは、ほんとうに申しわけない言い方になってしまうかもしれませんが、その教諭の力量、子供たちに対する思い、そんなところが入ってくるのかなというのが本音のところだと思います。

小田原委員　そうすると、先生方にしっかりやってほしいというお話になってしまうんですね。漢字の書き取り帳とか、そういうようなものは、各学校、あるいは先生方にお任せされているんでしょうか。

村田国語（書写）調査部会部長　教科書の会社が決まったところで、その教科書の会社に準拠した漢字の練習帳というのがつくられていまして、今、本校では使っています。それで、ページを指定して、その中から定着度テストとか、そういうものを作って定着させようとい

う工夫は、各校どのようにもやっていると思います。漢字に関して言えば、繰り返し繰り返しやることで定着します。そういう実績がほんとうに、3校、4校の経験ですが、私がかかわったところで成果が上がっていますし、現に私の勤務先でも、全校の放送テストということで漢字を定着させているところですが、子供たちがそういうことを繰り返すことで意欲が出てきて、定着につながっていると感じております。ですから、ここも、使っている学校のほうが多いのかなというところでは。

小田原委員 非常に難しいことを国語部長が投げかけられているように思うんですが、つまり、教科書というよりは、各学校がどう取り組んでいるかといったことのほうが大事というのかな、大きいというか、そういうことなんですか。

村田国語（書写）調査部会部長 あくまでも国語の教科書を使って、国語科の目標を教えていくし、子供たちに学習させています。ですから、国語の教科書で自習ができる、そういうふうに行っていると思いますが、やはり、教員の力もあるとは思いますが。

小田原委員 それでは、教科書に戻って何点かもう少しお聞きしたいんですが、重点項目の中に、「読み物教材」というのがありますよね。ここに新しい教材については、先ほど説明があったとおりに、新しいからいいとか悪いとかというわけではないというお話があったんですが、では、読みやすい教材とか、すぐれた文学教材というのは、どんなものをそう言うのか、その辺がわからないんですけれど、教えてください。

村田国語（書写）調査部会部長 新しい教材というのは、先ほども2社で作者名を申し上げたところなんです。三省堂で言うと、具体的に言うと、「トロッコ」とか、「注文の多い料理店」とか、そこら辺が少し易しいのかなというところで、もう少し読みごたえのある作品を、特に1年で欲しいなというところがあります。

教育出版のほうは、「オツベルと象」、「夏の葬列」などオーソドックスな読み物、文学的文章を載せています。また、今、「バースディ・ガール」等の新しい作品も、教育出版は両方取り入れられているのかなと思います。

光村図書は、読み物教材が多いんですが、「麦わら帽子」とか、「大人になれなかった弟たち」とか、「字のないはがき」とか、ある程度定着している作品が多く見られると思いますし、先ほども申しましたが、1年生で「坊ちゃん」があります。3年生で「高瀬舟」がありますが、人生を考えさせる、あるいは本市の実態を考えときに、高校に行かない、あるいは上級学校に行かない、あるいは上級学校に進学しても途中でやめてしまうと、学習の継続がなさ

れない子供たちにとって、ある程度日本の文学作品として定着しているものを読ませておきたいなという思いは、先生方から見られました。

小田原委員　さらに関連すると、資料編に載っている部分と、そうでない部分というのがあるわけですね。三省堂は資料編というふうにはっきりしちやっているんだけど、三省堂以外では章末に載せたりということをやっているんですが、資料編も扱うというふうに考えていいんですか。

村田国語（書写）調査部会部長　とてもそれは難しいところなんですけれども、先ほど申し上げましたように、八王子市内38校でほんとうに差があるんですね。だから、資料編のほうまで内容を深めてやれる学校もあるでしょうし、「資料編にこういうのがあるから、夏休みに読みましょう」くらいになってしまう学校もあるかと思います。ただ、本編のほうは、確実にしっかり教えなければならないと理解しています。

小田原委員　そうすると、今度は共通に各社にあるという教材、いろいろありますけれど、例えば魯迅の「故郷」で言えば、それをどう扱っているかというのは、また、それぞれ特徴を持っているんですが、38校でいろいろあるのはそれとして、こういう形の扱い方を示しているのがいいというふうに言える教科書はどれと言えますか。

村田国語（書写）調査部会部長　すみません、そこまでの検討は済んでおりません。ただ、やはり、これも教える教員のそれぞれの思い、あるいは年齢、あるいは育ってきた環境等、いろいろあると思うんですが、中学、義務教育9年間の最後の学年に、この作品が累々と入れられているというところには、やはり、この作品の持つ大きな意味があると思っています。ですから、この作品の後にどういう設問、どういう課題があるにしろ、この作品を通して人類を考えたり、平和を考えたり、自分の人生や人との付き合い、人への思い、いたわり等、考えさせられればいいのかと思います。

石川教育長　都教委の調査研究資料によりますと、指導要領に示していない内容を全社が扱っているようなんですけれども、ただ、三省堂だけが1、2年で扱わずに3年生のみに入っているというように読み取れますけれども、その辺について、本市の検討委員会の中では検討されたんでしょうか。

村田国語（書写）調査部会部長　特に大きな問題としては取り上げませんでした。文学の流れですとか、その辺りはあったほうが好ましいんじゃないかなという、先生方の大方の意見ではありました。

石川教育長　取り上げている項目が、今言われたようなものがほとんどということですか。

そうすると、改めてあってもなくてもいい、あればそれに越したことはない程度というところなんですか。

村田国語（書写）調査部会部長　教科書にこれがあるないは、あればあるほうがいいなというところではありますが、ほとんどの中学校で3年間にわたって使える国語科の資料集を持たせておきまして、そこでは文学の流れは全部載っておりますので、教科書を使う上での便宜上の部分というのにはありますが、中学生にはあまり細かく教えなくていい項目なのではないかなと思っております。

齋藤委員　正直言いまして、私、今3社ぐらいの中で悩んでおります。今の先生のお話などを聞きながら、教育出版ですが、先ほどバックの紙が白くて、目が疲れるというような御意見があったというのを少しお伺いしたんですが、私なんかは、逆に白い紙にくっきりと読みやすいなという印象を受けたんですね。それを調査会の方々は、デメリットのほうとして挙げてきたことに、なるほどなというふうに聞いていたんですが、そのあたりは、実際、先生方がいつも取り上げられている中で、生徒たちの目が疲れるというのは大きなポイントになるんですか。

村田国語（書写）調査部会部長　5社を比較したときに、他社の方が色がついていて、目に優しいという印象があるんですね。国語の教科書は、御存じのように長時間読んだり、見たりするものですから、できれば子供たちには負担が少ないほうがいいのかないかなというの、決定的なものではないと思いますが、もし考えていただけるならということで挙げました。

小田原委員　今のに関連すると、文字の大きさとか、イラスト写真とか、それからページのバックの色とか、そういうことが大きな要素になるのかどうかということだろうと思うんですね。ほかの教科でも聞いている話があって、きょうは聞きませんが、1番から5番まで調査の観点があるけれども、その中で一番大事なのはどれかというふうな質問がありましたけれども、ポイントをどこに置くのかという、そういうとらえ方をするかということだろうと思いますけれど、私は、例えば今の大学案内に4コマ漫画が登場してきている傾向があるんですが、それが高校の案内、中学の案内なんかに出始めている。そういう流れが、教科書の中にもかなりあるんですね。国語だけは、なぜかというか、あるいは何とっていいのかわかりませんが、キャラクターが登場してこない少ない教科の一つです。そういうのをどう見るかという、そういうことに行っちゃうんで、僕は、その辺が一つの観

点、見所かなというふうに思っはいるんですけどね。

今のに関連しての感想です。

名取委員長　ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

ほかに御質疑がないようでありますので、次の種目に移ります。

書写について、検討委員会から御報告願います。

山崎国語（書写）調査部会副部長　それでは、書写関係の御説明をさせていただきます。書写は、6社教科書がございます。この教科書につきまして、国語の教科書と同様、八王子市内の全中学校現場で教えている先生から意見をまとめまして、それを参考に、調査委員会でまとめという形をつくり上げました。

上の内容からですが、基本的に書写は、授業時数、1年生は全体の10分の2ということで年間28時間程度ということになっております。2、3年生につきましては、10分の1ということで、年間10時間程度という扱いになります。その中で、毛筆の指導と硬筆の指導と、大きく分ければこの2つが入ってまいります。現代、我々の生活の中で、毛筆を使うという機会は非常に少なくなっております。まして子供たちは、ほんとうに授業の中で毛筆を使う以外、なかなか筆を握るという機会はないんじゃないかと思ひます。一つの文化として、筆で文字を書くということは、やはり我が国にとっては、大切な、伝統的なものではないかということになると思ひますし、やはり文字というのは人をあらわすということで、この学習は大事なものになっていくんじゃないかというふうに思っております。

そういう中で、硬筆教材、それから毛筆教材の割合ということで、その表のとおりになりました。東京書籍、大阪書籍、光村図書あたりが、毛筆教材に重きを置いているという傾向があると思ひます。反対に三省堂のほうは、硬筆に重点を置いた内容かなというところでは。

それから、構成及び分量ですが、上の部分とも関係があるんですけども、筆遣いの説明等を比較していただくときに、東京書籍、大阪書籍、若干説明をもう少し工夫が欲しいかなと思ひする部分はありますが、基本的に東京書籍が「ややわかりにくい」と書きましたけれど、大きな差もないかなという気もいたします。それから、特徴的な構成として、三省堂の場合は、本編と資料編という、国語の教科書に類した構成法をとっております。

それから、3つ目の表記及び表現ですが、お手本というのが、書写の教科書の場合、非常に大切な意味を持っております。原寸大の手本がどのようになっているかという状況は、そこに書いてあるとおりです。光村図書は、「毛筆の原寸大の手本はない」というふうに書きま

したけれども、やや小さいサイズですが、書き初めの中には、ほぼ原寸大と言ってもいいかなと思うぐらいの大きさのお手本はついております。若干、表現をつけ加えたほうがよかったかなというふうに思っております。それから、やはり文字ですので、字体がどんな状況かということも、大切な要素だと思います。東京書籍、学校図書、光村図書あたりのところの字体については、整っているんじゃないかなというふうに感じます。

それから、使用上の便宜ということですが、配列の仕方とか、あるいは実用生活の中でどういうふうにそれが応用できるかというようなところで考えております。東京書籍については、配列は平均的というんでしょうか、わかりやすい配列がされている。大阪書籍は、若干、生活中での実用例が少ないかなという感じがいたします。それから、学校図書の1年生の行書の4文字の手本が1つ出てくるんですけども、文字そのものが若干難しいかなというような感じもありました。それから、光村図書のほうは、行書4字の手本というのは発展教材というふうに変更教材に含めて入っております、やや高度なものも、発展学習の中でというようなことで配慮がされているようなところがありました。

それから、5番目の重点調査項目ですが、まず書き初めの手本というのを、1つ目の重点項目にいたしました。先ほども申し上げましたとおり、授業の中での時間数を考えますと、非常に時間が限られた中での学習ということになります。また、日常的にも非常に筆に接する機会が少ないんですが、書き初めにつきましては、我が国の伝統的な正月の行事でもありますし、ほとんどの学校で、このあたりのところを冬休みの宿題というような形で出しまして、それを1月、2月の書写コンクールというようなところに出品をしているというようなところがあります。書写の指導時間数、2年生、3年生、年間10時間ずつの半分を充てるとしても5時間程度ということになりますので、基本を復習した上で、作品として書写を扱って、それをコンクールというような形で見ていくというような形が多いんじゃないかというところで、書き初めの手本がどうなっているかというところを重点項目にいたしました。

それから2つ目、かなの手本、毛筆の関係ですが、これがどういうふうになっているかということです。これは、指導要領の各学年の指導目標中に、漢字、楷書、行書と、それに調和した、かなと漢字の調和という項目が1つありますので、かながどういうふうに扱われているのかということがポイントかなということで、2つ目の項目として挙げました。

最後、各社独自の工夫ということで、それ以外のところでどういう特徴があるのかなというところで3つ目、見るという、この3つについて見ていきました。

まず書き初めの手本ですが、学校図書がやや縮小版、それから三省堂がやや縮小版ということ。あとは原寸大の手本というのがとられております。例につきましては、その表のとおりになっております。大阪書籍と教育出版は、書き初めという扱いではなくて、補助教材という形で扱っております。実質的にはそれほど影響はないんじゃないかなとは思いますが、「書き初め」という表現をしなかったところに何か意味があるのかもしれない。

それから、かなにつきましては、まとめ方が、どういう形で出てくるかという比較をしてみました。東京書籍と三省堂は、あいうえお、かきくけこという50音図に従った形で出てまいります。それ以外のところは、いろはうたをもとにしたいろは順で出てきているということです。特に光村図書は、いろは順が、いろは歌の意味の区切れで行を変えているという形、それ以外のいろはうたについては、単純に字数で並べているという違いがあります。これは、先生方、歌の意味で切られていて、行によって長さが違うんで、若干使いにくいという印象を持った先生が多かったようですが、これは見方を変えれば、意味との関連で考えれば、逆にこのほうが子供にとっては学習しやすいのかなという見方もできるんじゃないかという気がいたします。

それから、各社独自の工夫というところですが、漢字表(1006字)、これは小学校で学習する漢字ですが、この1006字について、各社とも全部一覧表という形で扱っております。これ、硬筆の行書漢字表ということで載っております。

それから、一部、光村図書なんかは、楷書と並列させて、違いをわかりやすくしている工夫があります。

それから、あいうえお順でまとめている部分と、それから教育出版のように、偏と旁という形で分けているというようなところもあります。若干、偏と旁のほうを探しにくいかなという気もいたしました。

それから、1社、三省堂が非常に特徴的なんですが、教科書そのものには書き入れができるようなワークブック的な性格を持たせているという特徴がありました。

それから、教科書の構成の仕方ですが、2、3年生については、三省堂が本編と資料編というふうに2つに分けてありまして、2年生、3年生という区分けがありません。それから、教育出版だけが、2年生がこの部分、3年生がこの部分という形で明確に分けております。それ以外の教科書さんは、学年分けがやや不明確かなということは言えますが、これは逆に言えば、授業時数が非常に2年生、3年生少ないんですね。それで1年生が28時間ありま

すので、この中で若干融通させていくという点で考えれば、あまり明確に学年を分けていないほうが扱いやすいのかなという考えもできると思います。

以上です。

名取委員長 ありがとうございました。

ただいま検討委員会の報告は終わりました。

書写について御質疑はございますか。

齋藤委員 すみません、今の先生の御説明で、私聞き落としてしまったのかもしれませんが、このすべての出版社の中で、一つの大きな特徴として、硬筆と毛筆の比重というのがありまして、各社によってかなり違ってきていますよね。そのあたりが、非常に大きな特徴なのかなと思いながら聞かせていただいたんですけども、調査部会の方も、そのことについて触れられていたんですけども、調査部会の意向としては、このあたりの比率というものが比較的強く論じられていたんでしょうか。ここが一番大きな各社のポイントだというふうに、私は思ったんですね。御説明があったのを私が聞き落としたかもしれないんですが、もう一度ちょっとそのあたりのところを詳しくお話しただけたらと思うんですが。

山崎国語（書写）調査部会副部長 報告書の中にその割合をパーセントという形で出しております。毛筆教材が最も多いのは、東京書籍の62%、次が大阪書籍の59%、次が光村図書の57%というところで、三省堂だけが毛筆47%で硬筆のほうが多くなっているんですね。ということで、書写というと、どうしても毛筆が中心になるというのが、授業の中ではやむを得ないことだと思いますが、出ている数字そのもので、62%と59%と57%の差については、あまり意識はしておりません。多いかなというようなところですね。よろしいでしょうか。

石川教育長 先ほど1年生で28時間程度ですか、それから、2、3年生は10時間ずつで合計すると20時間ということでしたが、そうしますと、3年の間で、多く見ても50時間にはいかないぐらいの時間になりますよね。そういうこと言えば、今の毛筆と硬筆の扱いですけども、本市の指導実態として、どちらへウエートを置いているのか、その辺わかりであれば、教えていただきたいんですが。

山崎国語（書写）調査部会副部長 そのことについての調査ということは特に実施したことはありませんが、大体どの学校も、与えられた時間数に従ってやっているんじゃないかと思えます。特に、経験的には、1年生の場合は、かなり毛筆の部分に重点が置かれているんじ

やないかなというふうに思います。2、3年生になりますと、やはり毛筆を扱うのは少ないので、書き初めを中心としたところで毛筆を扱うというところかなと思います。

小田原委員 細かいことなんですが、大阪書籍の使用上の便宜のところ、生活の中での実用例が少ないと言うんですが、生活の中の実用例というのは、具体的にどんなことを言っているんですか。逆に他社では、そういう生活の中の実例というのはあると見ていいんですか。

それから、三省堂のところで、生徒の「気づき」を大切にしていると、先ほど高度な発展でというような話なんだけれど、生徒の「気づき」を大切にするというのは、どういうことなんですか。そこら辺、教えてください。

山崎国語（書写）調査部会副部長 生活の中の実用例ですが、この実用例というのは、実際に学習したことを生活の中でどういうふうに生かしていくのかということなんですが、例えばはがきを書く、手紙を書く、案内状を書く、あるいはポスターの文字の関係ですとか、あるいは3年生くらいになってきますと、のし袋というんですか、祝い袋を書くといった、実生活の中に生かしていく学習ということです。例えば東京書籍ですと、年賀状の書き方、あるいはレポートの書き方とか、あるいは本のカバーをつくるというようなことについての扱いというようなものが出ております。光村図書も、同じように年賀状とか、あるいは生活に生かすという点で、先ほど申し上げたような例を扱っております。

それから、三省堂の、生徒の「気づき」を大切にしているということですが、硬筆の部分と、あるいは毛筆も含めまして、三省堂は、教科書の最初の部分で、知識的な部分というのをかなりまとめて説明をしているんです。19ページぐらいがずっと説明になっているわけですが、このあたりのことで細かくいろいろと説明をしながら、いろいろ学習をする上で必要なことを学ばせているということだと感じました。

小田原委員 今話を聞くと、ほかの社とほとんど違いがないというふうに言っていると思いますよね。そういう印象ですね、今の説明だと。「気づき」についても、ほかのところでないわけではないということですよ。

山崎国語（書写）調査部会副部長 はい、そうです。

小田原委員 それから、先ほど毛筆か硬筆かというお話がありましたが、実態としては、毛筆がほとんどだと、私は見ているんですね。毛筆を考えれば、例えば「いろは歌」で毛筆はやるべきなんですね。一方、硬筆は「あいうえお」でやるべきだというふうになる。かなの手本が「いろは」なのか、「あいうえお」なのかというのは、毛筆か硬筆かでいわば決まって

くと思います。子どもたちに硬筆を意図すれば、「あいうえお」をとっている、僕はそういう見方をしていますが、そういうことが言えるのかといたら、判断の材料としては難しいなというふうにも思っています。では、どうするかというときに、ここにある毛筆の教材の多いほうがいい、あるいは原寸大の手本が多いほうがいいということになるのでしょうか。

山崎国語（書写）調査部会副部長　実際に指導する場面は、確かに小田原先生がおっしゃったとおりだと思います。したがって、毛筆に中心を置いた教材であるとか、あるいはいろは歌ですとか、その入れ方とかというのに、確かになっている気がします。

名取委員長　ありがとうございました。

ほかには、よろしいですか。

ほかには御質疑がないようでありますので、次の種目に移りたいと思います。

倉田社会（地理・地図）調査部会部長　社会科部会の調査報告をさせていただきます。

報告の仕方を、最初、観点ごとに、横に概括して各社の特徴を説明するような形にさせていただきます。

まず調査の観点の内容です。6社あるわけですが、各社ともキャラクターを使いまして、キャラクターの仲間とか、あるいは大阪書籍のように鉄腕アトム等のキャラクターを使いまして、確認事項、学習課題を提示しております。これは、各社とも共通して使いまして、キャラクターをたくさん使っているのは、一番多かったのは帝国書院で、少なかったのは日本書籍新社でした。

それから、1番の内容ですが、これは各社とも基礎から発展的なものを、大体取り入れておりました。

それから、2番の構成及び分量ですが、指導要領の中では、文言は3つの大きな内容になっております。「世界と日本の地域構成」、「地域の規模に応じた調査」、それから、「世界と比べてみた日本」という文言になっているんですが、各社の扱いは、この言葉を使っているところ、あるいは若干言葉を変えているところ、それから、この言葉を全然使わずに、次の章をそのまま1から7つに分けた日本文教出版の場合ですと、3つの大項目は除きまして、次の章から同列に分けております。そんな状況です。

それから、都道府県で東京を扱っているのは、6社の中で大阪書籍と日本書籍新社以外の4社が扱っています。

続きまして、3番の表記及び表現ですが、それぞれのところでは、グラビア、地図、それ

から資料等を、それぞれ各社が色分けされております。それから、ルビも、かなり多く使っております。報告書の中では、具体的だと思ひまして、領土、領空、領海のルビについて報告させてもらいました。具体的には、その領土、領空についてのルビがあったのは、教育出版、それから帝国書院、それと日本書籍新社です。

続きまして、4番の使用上の便宜ですが、このところは、それぞれの各社が、関心を示させる、あるいは使いやすいようにということで、いろいろ工夫をしております。例えば大阪書籍の場合ですと、農業コースとか、工業コースとか、Uターンコースなど、そういう調査方法を取り入れています。あと、申し訳ありません、大阪書籍の使用上の便宜のところにあります、「教科書に書き込むスペースがない」という記述ですが、実は確認をしましたら、1つありましたので、訂正させていただきます。

次に、重点調査項目ですが、地理では、重点調査項目を5点設けました。1点目は、調査・討論など多様な学習活動を取り入れているかです。東京書籍の場合ですと、地理スキルアップ1～22が準備されております。それから、大阪書籍ですと、調べ学習の課題が用意されております。それから、教育出版ですと、全般にわたり調べ学習の課題や方法が提示されております。それから、帝国書院ですと、その課題のほかに、調べ方の視点の例や、調べ方、調べ先を提示しております。それから、日本文教出版ですと、各節の始めに「学習の課題」が設定され、「課題の追求」も用意されております。それから、日本書籍新社は、各章ごとに「さらに深める学習」が用意されております。このように、それぞれの課題を設けて子供たちにさせるということを考えております。

次に2点目の、地域の特性や実態に適した内容になっているかです。教育出版と帝国書院が八王子を扱っております。あとの4社は、他の地域を扱っています。特に教育出版は、44ページから65ページと、ページを割いて、トレーシングペーパーとか、身近な、八王子にある内容を盛り込んでおります。それから、帝国書院の場合ですと、川口地域のあたりですね。具体的に川口中学校のところで、身近な東京を題材と挙げまして、課題全体を見渡せる工夫が、課題を設けて、課題全体が40ページのところで欄外に載せておりまして、具体的な項目が立てられております。

それから、重点調査項目の3番目は、資料を選択し活用する学習活動や作業的な学習を重視・充実する上で資料の収集、処理などに当たって、コンピュータ、情報通信ネットワーク、教育機器の活用を促すような題材や学習活動の事例があるかどうかです。ホームページに関

しては、巻末のところに載っているわけですが、扱っているのは、日本文教出版以外全てが扱ってありました。それから、インターネットについては、すべての出版社のほうで記載しております。ただし、インターネットの活用等に関しては、差がありまして、単に調査方法の1つとして載せているところもあれば、詳しく活用している内容のところもあります。例えば大阪書籍ですと、いろいろな調査方法の1つとして載せてあるということで、ニュータウン構想を例に、ホームページにまとめるというようなことの作業がありますが、それほど綿密にという形ではなく、あっさりやる形のところと、あと日本文教出版ですと、パソコンに写真を入れるとか、あるいはインターネットの活用、ひたちなか市の資料の中でそれを使うとかというような形をとっております。

それから、重点項目の4点目は目次から本文以外で学習課題としてまとめた形で提示されているものがあるかということです。これは目次から拾いました。例えば東京書籍ですと、「深めよう」が4項目、「発展」が5項目、大阪書籍が「大きくジャンプ」が6項目、「ズームイン」が11項目、それから、教育出版が「わたしのレポート」が8項目、「クローズアップ!地理」が5項目、それから、帝国書院が「プラス」が2項目、「テーマ学習」が9項目、それから、日本文教出版が「見て、読んで、発見する地理」が5項目、「もっと知りたい」が3項目、それから、日本書籍新社が「さらに深める学習」が13項目というような形をとっております。

続きまして、最後の重点調査項目、領土のところでは、北方領土、竹島、尖閣諸島についての記述内容ということで、書いてある内容について挙げさせていただきました。北方領土については、それぞれ書いてあるとおりです。歴史的な経緯を説明して、今どうなっているかということで話がまとめてあります。それから、竹島、尖閣諸島について2つとも記述してあるのは帝国書院です。あとは、日本書籍新社が竹島を記載しています。そんなところが概要だと思えます。

調査の観点別の大体概要を説明しました。

続きまして、各社の特徴的なものを、縦に話をしたいと思えます。簡単に申しますと、東京書籍ですが、資料や写真が非常にそろっておりまして、調べる視点も提示されていて、進めやすいと思えます。

それから、大阪書籍ですが、調べ学習で、農業コース、工業コースの例示等があり、それについては非常に対応しやすいんじゃないかと思えます。

それから、教育出版に関しては、身近な地域、特に八王子を扱っていますので、子供たちにとっては、興味、関心を持って、これに対応できるんじゃないかと思います。

それから、帝国書院に関しては、資料もそろっていて、調べ学習においても八王子を取り扱っていますので、生徒は興味、関心を持って対応できると思われます。

それから、日本文教出版に関しては、各節の始めに「学習の課題」と「課題の追求」がありますので、これを活用できるかと思います。

それから、日本書籍新社については、各章ごとに「さらにふかめる学習」が用意されて、これも活用できるのではないかということです。

特色、報告書の中で細かいことも書いてありますが、概要だけを説明させていただきました。

名取委員長　　ただいま検討委員会の報告は終わりました。

地理について御質疑はございますか。

石川教育長　　細野委員から預かったものから、1点ございますのでお願いします。グローバル化とローカル化、両方の視点が重要であることを明確にしている教科書はどれかという質問がありました。

倉田社会（地理・地図）調査部会部長　　非常に難しく感じているんですけど、指導要領の中で、先ほど3つの大きな分け方をしていると申し上げましたが、「世界と日本の地域構成」、「地域の規模に応じた調査」、それから、「世界と比べてみた日本」ということであるんですが、東京書籍や大阪書籍、教育出版、文教出版、各社それぞれ挙げさせていただいた課題をもとに考えていくことによって、グローバル化の観点と対応できるものと思っております。

どの業者が一番強いかということは、私のところではっきりと答えられません。

それから、ローカル化のところですが、これは身近な地域のところで先ほど説明させていただきましたけれども、特に八王子を載せているということは、これに該当すると思います。教育出版、帝国書院が八王子を載せておりますから、これは非常にそれに該当するのかなと、これは明確に言えると思います。

石川教育長　　関連しまして、八王子を扱っている出版社が2社あるわけですけども、特に教育出版については、随分ページを割いているんですね。八王子の子供たちにとって、この点はよいと言える、非常に厚いと言えると思いますけれども、別の見方をすると、もし総ページ数がそんなに変わらないとすると、ほかの部分が非常に薄いということも言えるんじゃない

ないかと思えますけれども、その辺、何か工夫はされているのか。問題があるのかないのか。要するに局地的に扱っているのが多いことについての功罪ですね。その辺、検討委員会の中で検討されたかどうか、お願いします。

倉田社会（地理・地図）調査部会部長　そこまでのところは話し合いがなかったんですが、確かにそちらの全体ページが、本文ページをずっと比較しますと、201ページで、ページ数自体も、全体の中では一番多いわけではないですね。一番多いページが241ページのところがありますから、201ページの中でそれだけのものを割いているということは確かにあるかと思えますが、それぞれどこを重みづけしたかということで、おそらく、教育出版は身近な地域の学習、ここでは八王子を取り上げてありますが、その部分をかなり重くしたのは事実だと思います。ただ、その他の部分が手薄になったのかということとそうではなくて、これは指導要領に一応のっとしてやっていますので、その中身については、やっぱりページ数は少なくなっているのも事実だと思いますが、他がまずいということはないと思います。

小田原委員　今の教育長の質問は、構成のところ、取り扱い地域を各社で挙げていますけれど、そういったいわゆる取り扱い地域を取り出して挙げていることがどういう意味を持っているのか、だからどうなんだということとあわせて、今の八王子の問題を聞いているはずなんですよ。そこを答えてほしい。

倉田社会（地理・地図）調査部会部長　本来的には、身近な地域の学習の中で挙げられている地域は一つの例です。ここでは、例として、たまたま、八王子が出てきているんだと思いますが、ただ、八王子が取り上げられていることによって、資料の中で、自分の学校の近くの情報が出ていたりということで、そういう点で関心を持ちながら調べるということで、先ほどのローカル化のご質問と関連して、非常に子供たちも興味、関心がわくかなと思っております。

あと、先ほどのページ数のことについては、先ほども言いましたけれども、それぞれの中の各業者の思いがあるかと思えます。具体的には、都道府県でも、教育出版のでは扱っていますし、それから、世界の中でもそれぞれ扱っていて、それぞれの中で、調べ学習の進め方のことを含めながらやっていますので、特にそこで弊害があるというような感じは、個人的には受けなかったと思っております。調査部会では、そのことに関しては、話し合っていないので、私の個人的な見解です。

齋藤委員　何点か質問したいところもあるんですが、ちょうど今その問題が出てきたので、

私も関連で、逆に、調査部会の先生方の御意見をお伺いしたいんですけども、もし出なければ、倉田先生の個人的な感想でもいいんですけどね。私も、やはり見てみて、全国版の教科書に八王子市がこれだけページを割いて取り上げられている。これは、一般市民から考えると、非常に光栄で、すごいことだなと思うんですけども、特に教育出版なんかについては、19ページも割いて、八王子のことをずっと取り上げている。帝国書院も、かなりのページを割いています。また、落とされているのかもしれませんが、東京書籍では、89ページに多摩ニュータウンを取り上げていて、コラムの中で八王子市が取り上げられています。やはり、こういう形で八王子市が全国版の中でも取り上げられているというのは、何か意味があるのかなと私も思いながら真剣に読んだんですけども、その辺り、どうして、八王子市というのは、全国の中で注目を浴びながら、地理の教科書の中に取り上げられているのかという、具体的な話は何か出ませんでしたでしょうか。

倉田社会（地理・地図）調査部会部長　特にこれについて議題としてはなかったんですが、一応雑談の中では、八王子は絹の町ということで、そのあたりの歴史、変遷について、非常に業者としては取り上げやすいという要素があるんじゃないかと。織物の町から現在の町の姿への変遷が、非常に興味を持ってまとめやすいということがあろうかと思います。それから、大学等もふえています。そんなことの兼ね合いから、八王子というのは非常に調べやすい、調べて価値あるというか、中身のあるということで選んだと、私どもはそういうふうに感じております。

小田原委員　これは、各教科書が、自分たちの地域を調べようというときに、小牧市とか萩市を挙げたりしていますよね。その中に八王子市も入っている。それで、中身を見ていくと、これまでのところ、非常にデータを細かく取り上げて、農業から、工業から、歴史から、扱っている。どうしてそういうところが当たったのかというのは、各社がいろんな思いとか、あるいは編集者がいるとか、そういう材料を持っているということだというふうに、僕は見ているんですね。先ほどの教育長の質問から関連して質問していたのは、例えば八王子が挙がっていないければ、逆に八王子について調べようということになるんじゃないか。これ、八王子を挙げちゃっているということが実は意味があるのかというのは、僕は逆の意味で弊害も出てくると思うんですよ。もう挙げられているから自分で調べなくなっちゃう。それがいいのか悪いのかといった話だろうと、私は思うわけですよ。先ほど聞いたのは、だから、ほかの部分について、いろいろ挙げているけれども、どう扱うべきなのかというのではなくて、

むしろ必ず扱わなければならないことなのか。つまり、大阪書籍で愛知の小牧を取り上げていけば、それをやらなきゃいけないのかということなのね。そうではなくて、小牧が例として出ているけれども、身近な地域を調べるという項目であるから、八王子市の生徒は八王子市のことを、自分たちで調べようというふうに、班別なり何なり、あるいはインターネットであれ、市役所へ行くとか、いろんなことで調べさせるのか。それから、さらに発展して東京を調べるとか、そういうことをむしろ聞きたかったんですね。

そういうことを考えていったときに、その下に、発達段階に配慮した分量という記述があるんですが、日本文教出版だけ、そのところの記述がないのは、先ほどの説明が答えの一部にもなるのかなというふうにも思っているんですが、大学の先生だとか、現場のベテランの先生だとか、指導要領に従って編集している教科書で、発達段階に配慮しない、そういう教科書というものはあるんですか。

倉田社会（地理・地図）調査部会部長　発達段階のことについては、日本文教出版のほうで、興味、関心を示すようなコラムをつくって出しているんですね。そのコラムがいわゆるそれが発展教材になると思います。ただ、量的なことを考えたら、ちょっと少なかったものですから、調査委員会では、このところは書かなかったんです。そういう意味合いがあります。決して発展教材がないということではありません。あるんですけど、他社から比べると少ないのではないかと、そういう意味合いです。

あと、前半の身近な地域については、これはあくまで、先ほど言いましたように、一つを例にとって、その調べ方を書いてありますので、それに基づいて、また新たに調べるということになると思います。

それから、都道府県、あるいは世界の国々については、指導要領のほうでは、2つないし3つと書いてあるんです。2つないし3つを挙げてということを書いてありますので、その3つ以外のものについては括弧書きで、例えば大阪書籍の北海道・沖縄ですと、北海道と沖縄を比べているんですね。北と南で比べている。各社のほうでは、そんな形で参考に挙げているというふうにとらえております。

以上です。

小田原委員　もう1つ、これは、各調査に当たった皆さんが、全部教科書に目を通した上で、ここに報告書が書かれていると見ていいんですか。そうすると、例えば略図があるのとないのとか、それから、領土の写真とかがあるのかないのかとか、幾つかの点で、触れているの

と触れていないのがありますけれども、そうすると、あえて触れていない社はなしというふうに見ていいんですか。それとも、どういうふうに見ればいいんですか。

倉田社会（地理・地図）調査部会部長　どの社も触れてはいるんですが、あえて記述してある出版社に関しては、特にこんなふうの特徴が多かったとか、よかったという意味で挙げているつもりです。ですから、記述していない社で写真とかイラストがない、そんなことはありません。略地図の場合にも、各社あるんですが、記述している社は特にページを割いていました。そういう意味で、挙げました。比較の関係です。

齋藤委員　私もちょっと関連で、ここはお伺いしようとしたところなんですね。略図については、全社取り上げていますよね。その中で、この報告書の中で、特に大阪書籍のところの略図についての評価が高いんですが、正直私は、あまり差を感じなかったんですね。なぜ大阪書籍が高い評価なのか、もう一度よく見直してみたんですけれども、よくわからなかった。つまり、この報告書を見ながらちょっと悩んだ点が、一方で、同じページの重点項目の（１）の一番下のところに、「討論に関して・・・特に明示されていない」というのが全社に書いてあるんですね。ここのあたりが悩んじゃうんですね。つまり、片や討論に関していることが明示されていないということが全ての出版社のところに書かれているんですよね。差が全くこれについてはない、これは何でここにあえてこの２行をすべてのスペースに入れられたんだろうなと思ってしまう。その反面、略図については、特に大阪書籍が「豊富である」というふうに書かれたのはなぜなんだろうなということで、ちょっとこの報告書については、読み方に悩みました。そのあたりの御説明をいただけたらと思います。

倉田社会（地理・地図）調査部会部長　略図については、確かにページが割いてあるからいいかという問題もあると思うんですね。一応ページは、世界と日本のところでそれぞれ書いてあるわけですが、他の出版社も、何か取り入れやすいような書き方をしたりしておりますので、改めてこの報告書を見直したときに、確かに委員先生が言われたように、そのような感じはします。私も、見直してから、ページは確かに割いているけれど、実際どうかなというふうな、そういうふうに見ていただければありがたいです。

あと、討論については、結局、指導要領で出ている中から調査項目を挙げるということで、そこから来たものですから、具体的にやっていったら、こういう形になったんですね。途中で、実は発表のほうをやれば、もっと明確になったかと思います。その辺は、そういうような事情がありまして、先に動いてしまったものですから、ないということで書いてしまいま

した。

以上です。

小田原委員　　あまりこういうことを言いたくないんですけど、正誤表が2度にわたって来て、地理は、2回目のところでかなり多かったわけですよ。そういうときに、今みたいな話があれば、やはり言わなきゃいけないんじゃないですか。気がついていれば、仮に3回目であったとしても、報告すべきなのではありませんか。

ついでに申し上げますと、まとめ方も、4枚にわたってとじているのは地理だけですよ。1社はみ出しているわけなんですけど、何で1枚にまとめられなかったのか。やっぱりそのところも、配慮というのか、この辺いかなものかなというの、今の話を含めて感じざるを得なかった。例えば、今の討論の部分なんだけれども、わざわざ重点調査項目の最初のところに挙げていますけれども、各社が「ない」ということをあえて重点調査項目にしたというのはどういうことなんだということを言っているわけです。どの社も「ない」という評価ということは、みんなだめだということなのか、重点調査項目の1番目ですよ、その判断をやはり言うべきではないですか。この調査の視点というのは何によるかと言ったら、学習活動を取り入れている、この討論というの、班別学習とか、話し合い学習とか、そういうことを言っているんですか。

ついでに言うと、重点項目4番目のところの、「目次から本文以外で学習課題としてまとめた形で提示されるもの」というふうに言っているけれども、目次にあるかないかだけで終わっちゃっているようですけど、そうではなくて、中身は何かと言ったら、指導要領に言うところの事項を再構成するなどの工夫があるのかなのかという、そこを聞いているわけですよ。やっぱり、そういうところを聞きたかったんですが。

倉田社会（地理・地図）調査部会部長　　申しわけありません、先ほど言いましたように、討論については、発表の仕方等、非常にまとめている出版社もあります。そのあたりをきちんとまとめればよかったと思い、非常に反省しております。申しわけありません。

齋藤委員　　もう1点お伺いしたいんですけど、社会科という教科の一つの区切りの中で、地理と、これから歴史、公民というふうにつながってきますね。それで、今ここで出ている6社に、歴史と公民があつて2社プラスになってくる。ただ、これ、関連して一生懸命読みますと、ここに挙げられている6社、やはり社会科という大きな区切りの中で、つながりを持って書かれているというところが見受けられるんですよ。例えば領土の問題なんかでも、地

理で取り上げたものを、また歴史の教科書で取り上げ、公民の教科書で取り上げ、一つの出版社としての流れというものがあるような気がするんです。一応採択としては、例えば理科でも、第1分野、第2分野と分断して、第1分野はA社から、第2分野はB社から選んでもいいですかねという質問を先週させていただいたんです。同じように音楽でもそうですし、技術・家庭なんかもそうですよね。この社会科というのも、非常につながり強いような感じがするんですが、地理はA社、公民はB社、歴史はC社みたいな形で採択をされても、先生方はあまり、そこら辺は調査委員会としては、話として持ち上がってきたのかどうか、そのあたりの受けとめ方というのはどうでしょうか。

倉田社会(地理・地図)調査部会部長 歴史的分野、それから公民的分野のところについて、同じ出版会社のほうがいいだろうかというようなことに関しては、その検討はできませんでした。ただ、例えば地図の場合ですと、2つの業者しかありませんから、地図と地理で違った出版社の教科書を使うことはかなりの可能性であると思いますし、現実的に、今まで八王子の社会科の教科書に関して、出版社を全部合わせてあるということは、今までなかったと思います。ですから、先生方のほうで、特にそれぞれ出版社が違ったからといってやりにくいとか、おかしいところが出るということは、意見として聞いておりません。ですから、そんな状況からしたら、対応は十分できるというふうに、私は理解しております。

齋藤委員 今のお話で、先生方のほうはわかりましたが、子供たちのほう、実際受けるほうの戸惑いはございませんか。

倉田社会(地理・地図)調査部会部長 私が教壇に立ってやっているときも、やはり出版社は違っていたんですね。そのときの状況からすると、特に戸惑いがあるということはなかったと思います。

齋藤委員 領土の問題などもありますけれども、重箱の隅のような話で申し訳ないんですが、例えば大阪書籍なんかは、キャラクターとして鉄腕アトムを使っているんですね。この後の歴史、公民でも使っています。続けて読んでみますと、正直言いまして、私は、地理でのこのキャラクターの取り扱いは、ちょっと不適切かなと思ってしまったんですが、少し幼稚っぽさを感じたんですね。ところが、歴史、公民の方にいくと、有効に使われているなというイメージはあったんです。だから、このあたりが、ちょっと流れというものがやっぱりあるのかなというような感じがしたんですね。また、もっと大きな問題として、領土の問題なんかは、歴史、公民と特に大きな関連が出てくると思うんです。もう一度確認ですが、それ

は、地理、歴史、公民というものは、各社ばらばらになっても、学校のほうとしては、子供たちへの影響や、先生方の教え方についても、あまり気にすることは無いというような判断でよろしいですね。

倉田社会（地理・地図）調査部会部長 そのように思います。

名取委員長 ほかにはよろしいですか。ありがとうございました。

ほかには御質疑がないようでありますので、次の種目に移ります。

地図について、検討委員会から報告願います。

倉田社会（地理・地図）調査部会部長 それでは、地図に関する調査報告をさせていただきます。

地図については、2社ございます。各項目別に話をさせていただきます。

まず内容ですが、最初に挙げたのが、日本全図の基本図。地図が、東京書籍、日本全図に関しては500万分の1、それから帝国書院が300万分の1で、帝国書院のほうが大きいです。これは、ほかの地域、中国、あるいはヨーロッパに関しても、大きな地図を帝国書院が用いています。拡大図というようなことでも出てきます。

あと、課題に関して、東京書籍は、「調べよう」とか「特色を比べよう」ということで、地図の上に、例えば日本の地形的な特徴を調べてみようというような課題を載せております。帝国書院のほうは、地図帳の中に「やってみよう」とか「考えよう」とか、あるいは地図を見る目というようなことで、興味や関心を高める工夫をしています。北方領土の扱いに関しては、2社とも同じ場所を同じ箇所扱っています。それから、東京書籍の場合は、日本や世界の索引図が地図の最初のところにありますので、それを見れば、どのページのどこを見ればというのがわかりやすくなっています。一方の帝国書院のほうは、最初のほうで、地図帳の使い方が載っています。地図帳の使い方、あるいは都道府県の調べ方、国を調べる例がありますので、帝国書院はこの調べ方を重視して、トップにその内容が載っております。

それから、2点目の構成及び分量に関しては、具体的なところでは、東京書籍では、100年前の世界地図が載っております。これは、地理的にはもちろんそうですが、歴史的にも使えるかと思えます。それと、帝国書院は、東アジア、日本との結びつきの地図がありまして、遣唐使とか、大陸との交流のところがその地図から見れるというような、国際的な視点に配慮がなされています。

それから、3点目の表記及び表現に関しては、色の問題ですが、調査部会でも、あるいは

一般の先生から上がってきた意見の中でも、濃い色、淡い色ということで、非常に色についての意見は多く出されました。調査部会のほうで挙げた意見ですが、東京周辺のところを見ますと、東京書籍のほうが淡い色、それから帝国書院のほうは全体的に濃淡がはっきりしているというふうに見えました。

それから、4点目、使用上の便宜ですが、地図帳の中にはいろんなグラフがあるわけですが、調査部会では、例として日本の農産物についての表し方を比べてみました。日本の農産物は、日本の地図の中にどのように表されているかということで、東京書籍の場合には、該当の円の大きさ等で量を表示しています。数字も載せております。一方の帝国書院の方は、棒グラフであらわしています。そんなことで違いが出ております。

それから、重点調査項目の1点目、「調査・討論など多様な学習活動を進めるにあたって、基本図や資料図は適した内容になっているか」ということで、東京書籍については、一例として挙げましたけれど、「東北地方各県の農業の特色」、「東北地方の米作と冷害」、この辺りが非常に工夫されています。帝国書院の場合には、先ほど言いましたように拡大図が充実しております。ヨーロッパとか中国、その中で土地利用が、あるいは植生がどんな状況かというようなことが記号で載っていますので、これについて、どうしてかなということ調査、討論の資料になると思います。

それから、重点項目の2点目「地域の特性や生徒の実態に適した内容になっているか」ということで、関東地方の工業地域、繊維工業が盛んであった地域、八王子は繊維工業が関係ありますので、これなんか関連すると思います。それから、帝国書院の場合には、99ページに、東京駅へ約1時間で行ける範囲。地図帳に1という字が載っているんですね。その辺りなんかも、興味を持ってできるんじゃないかというのがあります。具体的には、今幾つか挙げたんですが、両者とも、基本図とか資料図もしっかりしているというふうに見ました。

以上です。

名取委員長　ただいま検討委員会の報告は終わりました。

地図について、何かございますか。

齋藤委員　次回のときの教科書採択のときなどにも、記録として残しておいたほうが、やはり調査委員会の方々の今後のことにもなるうかと思しますので述べさせていただきます。この地図については、ほとんど両方の会社に差がなかったんだらうなという御苦勞はよくわかるんですが、やはり我々はこれを報告書として比較しながら読んでいきますので、その辺り

が捉えられるようなまとめ方をお願いします。よくあるのは、使用上の便宜のところの一部は、全く同じ記述、評価が両社に書いてある。先ほども同じことを言ったんですけども、やはりこのあたりは、差がないものを両方に書かれても、何か意味があるんだろうかと考えてしまうものですから、やはり違いのあるところを指摘していただけると、我々、これを選ぶときに非常に参考になるんです。このあたりは、今後の報告書の作成の仕方を検討していただければというふうには、一つ思います。

それで、すべての項目を一つ一つ見ても、やはりほとんど差がない。やはり一番違いが出てきているのは、5番目の重点項目の(2)この地域性のところはもろに違いがどんどん出てきているんですが、地図というものにとって、地域の特性というのは、授業の中にやはり大きなウエートというものはあるのでしょうか。地図という教科書について、地域性というものは、やはり、かなり反映されるのでしょうか。

倉田社会(地理・地図)調査部会部長 重点項目2点目のところで挙げさせていただいたんですが、これはすべて八王子がかかわっています。その中で、八王子と出てくると、先ほどのローカル化の話もありましたが、やはり、その中で、子供たちが調べていく中で、自分たちの地域はどういう地域なんだろう、あるいはどのような特徴があって、どういふふうに変わってきたんだろうというようなことで、八王子がこのあたりで出ているということに関しては、大きな興味、関心を持って、あるいは課題解決等に関しても、自分も課題をつくってやっていけるというふうに思っております。ですから、その辺が大事なところだと思っております。

小田原委員 細かいことからお聞きしたいんですけど、地理では、地理の教科書と地図以外に資料集というようなものを使うようになっているんですか。使う学校が多いんですか、どうですか。

倉田社会(地理・地図)調査部会部長 使っているところもあるし、使っていないところもあると思います。私は、使ったことがあります。

小田原委員 それから、重点調査項目のところ、基本図のほかに、資料図と拡大図のことが触れられていますが、資料図は、まとまって後半のほうにあるのがいいのか、基本図の間にあるのがいいのか、使いやすさというのはどうなんでしょう。

倉田社会(地理・地図)調査部会部長 その辺は、例えば中国なら中国、ヨーロッパならヨーロッパでやっているとき、やはりそれぞれの地域の近くになれば、それがすぐ使えるとい

う利便もあると思うんですね。ただ、地図帳にも書いてあるんですけど、何ページのところに行けばその資料があるよなんていうことがありますから、後半でもそれほど支障はないと思います。ですから、どちらがいいかというのは、非常に言いにくいところです。

小田原委員 答えにくいことをもう1つ聞きますと、資料図と拡大図というのは、どちらが使われやすいんですか。

倉田社会(地理・地図)調査部会部長 本来的には、拡大図も実は資料図に入ります。ただ、こういうふうに分けたのは、資料図の中で拡大して見せたということがあるよということで、この拡大図だけを全面に出しているんですね。資料図の中には、いろんなグラフもあったり、地図のイラストみたいなものもあったり、いろんなものがある中で、特にここが目立つところでしたので、拡大図という名称を使わせていただきました。

小田原委員 ということを前提にすると、重点項目の1点目、多様な学習活動を進める工夫があるというのは、これは両者に共通して出てくるんですね。その多様な学習活動を進めるといったときに、では、どっちがいいのかということはどうなんですか、言えるんですか。

倉田社会(地理・地図)調査部会部長 例えば東京書籍ですと、「資料図が充実しており」とありますよね、その中で、例えば東北地方の農業の特色がありました。これは普通にやります、基本的なことです。それに対して、東北地方の米作と冷害が出ていますので、これを見きわめて深めたい内容等が出てくると思います。一方のほうでは、拡大図が充実しているということですので、この中で、例えば中国ですと、南船北馬ということで、北が馬、南が船ということで、稲作ですね、南が。それで、北が畑作のほうです。その植生が、拡大図の中に、小麦とか、あるいはトウモロコシ等のマークがあるんですね。そうしますと、その拡大図で、じゃあ、どうなんだろうということで、学習活動が考えながらできるという意味で、「多様な活動」というふうに書きました。

小田原委員 最後ですけども、これは地図帳なんですよ、資料集じゃないですよ。そういう点でいくと、基本図というのは、種別図とか地域別図、これのどちらが充実しているのかということと、それから、先ほど出てきた見やすさということですよ。見やすさについては、先ほどお話がありましたから、基本図の量という点ではどうなんですか。

倉田社会(地理・地図)調査部会部長 全体を通して数字的には幾つあるということを経験はしていないんですけど、基本図に関しては、拡大図をつくったりしていますので、帝国書院のほうが多いと思います。それから、その分、日本全図も帝国書院のほうが大きいです。

一方で、東京書籍の場合は、日本全図の中に写真を入れたりしている。ですから、資料そのものに関しては、写真等のグラフも含めて考えれば、東京書籍のほうが多いと思います。そんなところの区別があるかと思います。

小田原委員 それは、わかっています。資料は、東京書籍のほうが多いと思いますよ。基本図の部分で、東京書籍のほうと帝国書院を比べると、世界のほうは帝国書院のほうが多くて、地域別のほうで言うと、東京書籍のほうが多いんですよ。その違いがはっきりしているんですけど、そういう点での使いやすさとか、あるいはこれでは困るとかというようなことは言えるんでしょうか。

倉田社会（地理・地図）調査部会部長 これは、教える側のほうで、結局どういう視点で子供たちを教えていくか、どういう形の活動をさせたいかということで決まってくると思うんですね。例えば植生なら植生のところで、子供たちに課題を持たせてやりたいとなれば、当然地図の多いものの方がいいと思いますし、あるいは、ほんとうに資料のほうを、課題のほうでたくさん見て、いろんなものを拾い出してやるということになれば、多いほどいいと思いますので、どちらがというのは非常に難しいです。そういう意味で、結論が出なかったです。

名取委員長 ほかは。よろしいですか。

齋藤委員 私も、これを最後にさせていただきますが、何度も言うようですが、今回のこの地図に関する報告書については、大変苦言を持つ意味で、生意気申し上げて申しわけございませんけれども、非常に差が見られなかったというか、ちょっとこの報告書については、読みづかったというのが、正直な感想でございます。小田原先生も指摘をなされましたが、重点調査項目の最初の1行目にも、東京書籍のほうは「資料図が充実しており、多様な学習活動を進める工夫がある」、片や帝国書院のほうも「拡大図が充実しており、多様な学習活動を進める工夫がされている」、ほんとうにこれはどういうふうに読み取ったらいいのか、先生方の御苦労も、今お話を聞いていて、非常に大変だったということはよくわかるんですが、やはり採択していくというような報告書としては、非常に読みづらいところが事実としてあったことは、申し上げておきたいと思います。

大変生意気な言い方で申しわけございませんけれども、以上です。

倉田社会（地理・地図）調査部会部長 そのとおりだと思います。きちんとその辺は意識して、これから役に立てていきたいなと思っております。

名取委員長 どうもありがとうございました。

ほかに御質疑がないようでありますので、次の種目に移ります。

歴史について、検討委員会からの報告をいただきます。

なお、この歴史の報告をもって、午前中の部は閉じたいと思います。よろしく御理解ください。

新藤社会（歴史）調査部会部長　歴史の分野につきまして、報告をさせていただきます。

それでは、8社につきまして、報告をいたします。

まず1番目の内容につきましてですが、2点につきまして、調査をかけてございます。1つは、小学生から上がってまいりますので、小学校との内容の関連について、巻頭で取り上げているかどうか、それから2つには、歴史というものに対する興味、関心を引き出す配慮が見られるかどうかという2点について調査をかけました。

1点目の小学校との関連につきましては、小学校が人物史を主に取り上げていくという流れの中で、人物にかかわりまして、巻頭に掲げてある出版社が多くございました。

まず東京書籍は、イラストで人物一覧を載せまして、小学校との関連に配慮してございました。

それから、大阪書籍は、特に人物ということではございませんでした。鉄腕アトムという、子供たちに非常に時空を超えた感覚を持ちますキャラクターを用いまして、「歴史を学び、歴史に学ぼう」という形で歴史への導入を紹介してございました。

それから、教育出版につきましては、身近なお札という、その肖像からということで導入を見ております。それから、清水書院につきましては、「調べ学習」という設定で人物を取り上げて、ことさらだれということではなくて、人物の調べ方という形で取り上げております。

それから、帝国書院につきましては、小学校の教科書も含めまして、「教科書のおもな登場人物」という形でリストを列記いたしまして、「歴史人物カードをつくろう」という課題を設定して、連続性に配慮が見られました。

日本文教出版につきましては、特に人物ということではございませんでしたけれども、小学校の教科書の一部を使って調べ学習、「外国との交流を調べる」というテーマを設定いたしまして、外国との教科書の連続性を図っております。

それから、扶桑社につきましては、特に巻頭にこういったことはございませんでした。ただ、「人物コラム」というものを多く取り上げまして、小学校で人物を学んできたことについては、配慮をしていたというふうに思っております。

それから、日本書籍新社につきましては、小学校で学んだ知識をもとにして、地域調べ学習というようなことで、小学校との連続性に考慮したという点で見られておりました。

それから、興味、関心を引き出す配慮ということにつきましては、各社ともにコラムとか、特設課題を設定いたしまして、非常に努力の跡が見られました。私たち調査会がつかんだ特徴という意味ですが、特徴で申し上げますと、東京書籍につきましては、課題にプラスワンの知識を提示するという形で興味を拡大していくというような工夫がされています。

それから、大阪書籍につきましては、身近な事象に重点を置いて、子供たちの身近な地点から興味を引き出していく。

それから、教育出版につきましては、各時代の生活実感というあたりに重点を置きまして、興味を引き出しておりました。

それから、清水書院につきましては、歴史的な遺物とか資料、そこから疑問を提示して興味、関心を引き出すというところに工夫が見られたと思います。

それから、帝国書院も、大阪書籍と似ておりましたが、タイムスリップという形で時代実感ですね、よりそれを全面に押し出す形で興味、関心を引き出しておりました。

それから、日本文教出版につきましては、資料、写真を全面に押し出しまして、その資料、写真から問題を設問して興味、関心を引き出すということに特徴が見られたと思います。

扶桑社につきましては、特にそういった意味の課題設定はございませんでしたが、人物コラムあるいは読み物コラム、それから歴史の名場面という、非常に読み物の資料に重点を置きまして、子供たちに非常に取りつきやすく、わかりやすいという形で興味、関心を引き出しております。

それから、日本書籍新社につきましては、大きく見開きのページで、図や写真を大きく取り扱いまして、拡大して取り扱いまして、設問を設定していると。まず写真で興味を引くというところに大きな工夫が見られた、それぞれの工夫が見られたかなというふうに思っております。

それから、2番目の構成及び分量につきましては、これにつきましては、まず基本的な事項の理解を押さえ、さらにそれを確認するというような内容があるか、それから2点目に、発展教材への配慮があるかという、この2点を中心に調査をいたしました。本文構成は、ページ数は、そこに列挙いたしました数字のとおりです。その中に、まず基礎、基本の確認ですが、これは各社ともに、章末にその項目を設けておりました。

東京書籍は、この章を振り返ってみんなで考えようということで、この会社は、基礎、基本の確認に非常に重点を置いております。

大阪書籍は、これも基礎確認がございました。そして、それと同時に、1つ自己評価の項目を同時に、自分は理解できたであろうかというような自己評価の項目をこの章末にプラスワンしております。

教育出版につきましては、基礎、基本の押さえ、確認とともに、発展的設問を二、三つけてまして、次の章への、あるいは次の課題へのつなぎをしていくということがございました。

清水書院は、基礎の押さえということに重点を置いております。

帝国書院は、ここも基礎事項を押さえると同時に、発展的設問を設定しております。帝国書院につきましては、章末だけではなくて各單元ごとに、やってみようということ、非常に間隔を狭くしているというんですか、小まめにといいますか、そういう形で章という押さえではなくて、単元の押さえで、このことの確認を繰り返していくということが、特徴として見られました。

日本文教出版は、基礎的事項を学習のまとめと課題ということで押さえしております。

扶桑社につきましては、章末にまとめで基礎事項を押さえまして、さらに、非常にこれは特徴的でしたが、「歴史ドラマにチャレンジ」という項目を併設いたしまして、その登場人物になって自分がどういうふうに考え、意見を言って、そこからまた、さらに歴史事情を確認していくと。ロールプレイという発展的な手法を設定しておりました。

日本書籍新社につきましては、これは基本的な押さえと同時に、二、三、発展的な設問をつけているという状況でした。

それから、発展教材への配慮ですが、これも、各社ともにコラム、課題を設定いたしまして、特色を出しております。

東京書籍ですが、私たち調査会が見ましたのは、各章に「深めよう」「アクセス」という形で学んできたことを深め、次回へついでの流れをつくっていくという形で発展的な押さえをしております。さらに、全体的に分量構成といたしましては、本文記述を控え目にして、その分、写真資料を豊富に掲載しているというのが1つ、特色として見られたかなというふうに思っております。

大阪書籍につきましても、やはり歴史を掘り下げるということで、学んだものをさらに掘り下げていく課題を設定していくということです。それで、さらにプラスワンの特徴といた

しましては、各章に地図で見る世界の動きを設定して、同時代の世界の様子ですね、これが概観できるというような工夫がございました。

教育出版につきましては、「ご近所」とか「ひとびと」ということで非常に身近なところから発展教材をつかんでいくということ、それから、東京書籍と同じように、本文の記述は、ここは一番少ないんですね、分量だけで言いますと。その少な目にした分、写真や図を大きくして見やすくしていると、そういうところから子供たちの目が引きつけられていくという意味では、工夫があるのかなと思いました。

清水書院につきましては、各節にコラムを設定いたしまして、非常に小まめに発展教材の押さえをしてございました。そして、掲げられております資料の説明が、一番細かく丁寧であったということが言えるかなと思います。

帝国書院につきましては、複数でこの発展教材を提示してございました。「タイムスリップ」という見開きのページで大きく子供を引き寄せて、その資料から考えさせるとか、あるいは歴史の舞台を各地域に設定してというような形で、資料と地域からという形で発展教材をつくっております。

日本文教出版は、これは一つのこの社の特徴かなと思いますが、テーマ学習というんでしょうか、各時代全部通して、「子供と女性」というテーマを設定いたしまして、ずっと一貫して課題学習で追っております。そうした意味からは、子供と女性の生活感といいますか、そういったことから説き起こした歴史理解に、非常に発展教材としては工夫があるであろうというふうに、私たちは理解しております。

扶桑社につきましては、先ほども申し上げましたが、ロールプレイ、それから特に日本の文化的な工芸品とか、あるいは文化遺産に重点を置きまして、これらの発展教材を豊富につくっております。

日本書籍新社につきましては、さらに深めるという形で、これは特に大きな系統ということとはございませんが、それぞれの学んだことを深めていくという形の発展的な教材を設定しております。

それから、3番目の表記及び表現につきましては、文体が1点目です、それから2点目には印刷、写真の見やすさという、2点で見えていきました。文体につきましては、敬体、常体、このどちらかに分かれまして。でも、どちらにおいても、読みにくいとか、わかりにくい、文体においてのそれは、表現においては、調査会の中では、特にマイナスの意見はございま

せんでした。

それから、印刷写真等は、どの社もほんとうに見やすく、色も非常によく出ているというふうを考えております。

それから、使用上の便宜につきましては、ここは4点について調査をいたしました。1点目は、全体の構成、子供たちが見たときに、歴史全体の構成が見渡せるかということ、それから、課題発見、解決に向けた学習が効果的に進められる配慮があるか、それから、地域性への配慮があるか、それから、年表活用の配慮があるかという、この4点について調査をかけました。

全体の構成につきましては、これはどこを見てそう思うかということが大分議論の分かれたところなんですけど、とりあえず特徴的なところだけを申し上げますと、大阪書籍につきましては、巻頭に略年表をつくりまして、全体を見渡せる。ほんとうに簡単に概観するというのをやっております。これは、小学校との連続性ということのとらえでも、同時にとらえられるかなというふうに思っております。それから、教育出版につきましては、非常に目次が簡潔なんです。目次を追うことが、一つの時代の流れを追っていくということでは使えるかなということで、そのあたりで2社が特徴的であろうということです。他社は、さして特徴としての差は見られなかったということです。

それから、課題発見、解決ということの配慮ですが、これは、地域性への配慮と、2つが各社ともにあわせ持ちまして、この項目が作り上げられておりました。すなわち、地域の題材を使いまして、そして課題発見、解決の提示をしているという社がほとんどございました。

それで、まず東京書籍につきましては、「わたしたち歴史探検隊」という形で、ここもやはり地域の視点から課題学習をつくる。一応、地域の取り上げは10地点ですね、10地域取り上げてやっております。

それから、大阪書籍につきましても、身近というところで地域を取り上げて課題学習に焦点を当てております。ただし、大阪書籍につきましては、その地域性に、西日本に重点が置かれているということで、東日本の地域が全くなかったと。大阪、それから倉敷、福山、神戸、北九州という形で、地域という意味では、こんな特色が大阪書籍では見られました。

教育出版も、地域という形で、地域と結びつけまして、課題学習への配慮がございました。

清水書院も、同じように地域からです。数を挙げてございますのが、その地域の数です。

帝国書院も、歴史の舞台及び地域調査ということで課題学習をしております。数からいきますと、出かけていく地域や取り上げている歴史舞台が多いということでは、帝国書院が際立って多かったということが言えると思います。

日本文教出版も、身近なものと、あと、歴史的遺物、工芸品と、このあたりから課題学習を設定しておりました。

扶桑社につきましては、やはり伝統文化、工芸品や、あるいは仏像等、それから奈良、京都の文化財というあたりから課題学習の設定をしておりました。身近な地域という設定で言いますと、扶桑社の場合には東京を例示点ということで、その数という比較で言えば、少なかったということが言えるかと思います。

日本書籍新社につきましても、地域から課題学習という形で、地域と課題、調べ学習ということとセットにして、課題学習をかけていくというような設定が各社ございました。

あと、年表活用につきましてはの配慮です。歴史事象だけを追いました社が、東京書籍と日本文教出版と日本書籍新社。これは、歴史的事象だけを追っております。

あと、大阪書籍につきましては、世界遺産等写真を、あるいは世界の人口というようなことを併記しております。

それから、教育出版につきましても、世界遺産ですね。写真も一緒に併載しておりました。

それから、清水書院も、同じようです。文化及び写真資料ですね、文化にまつわります写真資料、そういったものを併載しております。

それから、帝国書院も、写真資料の併載がございました。それともう1つ、歴史年表の中に「海外交流」という欄を1つ設けていたということが特徴としてございました。

それから、日本文教出版は、併載はない、事象だけですね。

それから、扶桑社につきましては、写真や資料の併載がございました。これも、この社に特徴的に見られましたが、扶桑社は折り込みではなくて、6ページにわたって見開きで書いて、つくっておりました。非常に色もきれいに書いてございますが、ただ、全体を概観するという意味では、多少見にくいかなという調査会の意見がございました。

それから、日本書籍新社は、先ほど申し上げました歴史事象だけで、折り込みの年表ということになります。

それから、5番の重点調査項目です。多様な学習活動への配慮ということで、この重点調査項目第1点目の調査をかけました。そこで、どのような形で多様な学習活動を具体的に取り

り上げ、いろんな形で教科書の中に入れ込んでいるかというふうに調査いたしましたのが、この項目になります。

まず東京書籍は、数としては、非常に種類も多かったです。特に「スキルアップ」という形で設定いたしまして、系統的に調べ学習のスキルを身につけていくという意識的な設定が、東京書籍はございました。あとは、見ていただきながら、数等、内容等、ごらんいただければと思います。数として多いのは、帝国書院も、非常に数としては多様な側面から、あるいは多量に学習の活動を提示しておりました。あとは、ここについては、見ていただければというふうに思います。

2点目の重点項目、目次で本文以外に学習課題としてまとまった形で示されているものということで、これは知識によらない課題学習ということは3分野共通の課題でございますので、これにつきましては、3分野共通に調べております。一応これは数、51課題とか、29課題とか書いてございますが、各社大体25から30ぐらいの課題を掲げております。多かったのが東京書籍の51課題、少なかったのが教育出版の14課題でしょうか、そのあたりが、数で言えば、多い少ないというような特色は出るのかなというふうに思っております。

それから、3番目の重点調査項目は、今日的な課題に対して、多面的、多角的に考察する力を育てるための学習事項について、「朝鮮出兵」と「太平洋戦争」を取り上げてということです。今日的な課題の押さえですが、それを調査会では、今日的な課題というのは、学習指導要領にございます国際強調と国際平和実現に努力するという今日的課題、これに対して、多面的・多角的に考察する力をつける学習事項というような視点から調査をかけております。特に、本件は、1つは公民とのかかわり合い、それからもう1つは日本の現在のような問題、それから、歴史的な視点から言いましても、特にアジアとの問題は避けて通れないであろうということで、1つは歴史的な中でも、特に全人類に大きな影響を与えました戦争をどういう単元で扱っているか、それから、その戦争の中で、特に今申し上げましたアジアとの関連について見たということ。一応、全人類に及びました2回の戦争につきましては、ここに書きました名前を冠しまして、各社やっております。

朝鮮出兵から先に出させていただきます。今申し上げましたように、アジアの視点ということから、過去の朝鮮出兵ということに1つ、焦点を当てました。朝鮮出兵につきましては、表現と扱いについて追っていきましたが、見ていただくとおりです。

ところで、各社の特徴を申し上げますと、教育出版、これにつきましては、文化的な影響

面も記述しているということです。

帝国書院につきましても、儒教や陶磁器等、文化的な影響面を記述しているということがございました。

日本文教出版につきましても、「侵略」とか「出兵」という表現は全くとっていない。「海を越える」ということとか、あるいは「大軍を送る」という表現で行ってありました。

扶桑社につきましても、文禄・慶長の役が、ここだけございまして、非常に朝鮮出兵について内容が、ほかの社に比べて詳しく流れを追ってありました。

日本書籍新社につきましても、日本から武士とともに朝鮮に渡った僧侶の日記ということで、日本軍の残虐な振る舞いということ本文の中で記述してありました。そのあたりが、朝鮮出兵につきましても、特色として出ていたかというふうに思います。

それから、今申し上げました2度の大战の扱いと、その中で、特に近現代に近い太平洋戦争ということで、日本にかかわりの深いアジアという項目で調査をしております。戦争につきましても、東京書籍は、「二度の世界大戦と日本」、32ページですね。大阪書籍も、「二度の世界大戦と日本」という扱いで38ページ。教育出版も、「二度の世界大戦と日本」で34ページですね。それから、清水書院が「二つの世界大戦と日本」で32ページ。帝国書院が「二つの世界大戦と日本」で36ページです。それから、日本文教出版は「激動する世界と日本」というふうにくくりまして36ページ。扶桑社が「世界大戦の時代と日本」という形で37ページ。それから、日本書籍新社が「二度の世界大戦と日本」というくくりで36ページという扱いをしてありました。

その中で、アジアにかかわります歴史的な事象を取り上げたのが、この「21か条の要求」等、歴史的な事象の言葉になります。これをずっと追いかけてまいりましたが、いろいろ数等、少ないとか多いとかということはございましたが、でも、どの会社も、日本の勢力が大陸に拡張していくことと、それから、中国との戦争に及んでいくという経過につきましても、この中で読み取るということはできました。

それから、さらに多面的、多角的ということで、で統計的な、客観的な数字の裏づけということで資料を数え上げさせていただきました。その中で、まともに戦時下の国民の生活をあらわすものであるとか、あるいは経済の混乱、社会運動の勃発、あるいは戦争の惨禍みたいなものが、それぞれに、この客観資料で挙がっているかなというふうに思いました。そういった視点から、この内容もごらんいただければというふうに思います。数からいきます

と、扶桑社と、それから教育出版が、資料としては少な目であったと、そして、多いのが、大阪書籍と、それから帝国書院が、数の上から言えば多いというふうに考えております。私たちの視点としては、先ほど申し上げましたように、戦時下の生活であるとか、経済の混乱、それに伴う社会運動、あるいは戦争の惨禍というようなあたりを視点にしながら、この資料を見ております。

最後に、各社の特徴ということで、一応調査会で、こんなことで一言言えるのかなということでもとめました。

東京書籍につきましては、本文に基礎事項に関する押さえがしっかりしていると、写真資料が大きく、効果的に掲載されていると。これが東京書籍でした。

大阪書籍は、全般的に非常にバランスのよい教科書であると、ただし、地域的に西日本に重点が置かれている。

教育出版は、本文が、基礎、基本に非常に忠実に重点が置かれていると、全体的に非常に簡潔であると。

清水書院につきましては、レイアウトですが、字の部分が非常に多く、写真資料の扱いが小さいということでした。

帝国書院につきましては、多様な学習の観点が数多く提示されているということでした。

日本文教出版につきましては、先ほども申し上げましたが、テーマ学習という形で、「子供と女性」というテーマですが、テーマ史を取り上げまして、各時代、ずっと同じ目で追っている。

扶桑社につきましては、読み物集を多く取り入れている。

日本書籍新社につきましては、その時代に生きた人々に視点を当てた学習課題が非常に多かったというあたりが、一言で言えばということですが、特徴として挙げられるのかなというふうなことでした。

以上、調査会の報告を、簡単ですが、終わらせていただきます。

名取委員長　ただいま検討委員会の御報告は終わりました。

歴史について御質疑はございますか。

新藤社会（歴史）調査部会部長　すみません、重点項目最後のコンピュータ活用の点につきまして、申しわけございません、報告が漏れておりました。これも、情報学習で、ほんとうに重点の置かれるところです。各社ともに意識した取り上げ方をしておりました。コンピ

ータ及び機器に、活用まで踏み込んだ提示をしてございましたのが、東京書籍、それから帝国書院、日本文教出版が、活用事例にまで踏み込んでおりました。後の各社は、一応触れるという形で触れておりました。

あと、博物館等のアドレスにつきましては、そこにあるなしがございますので、ごらんいただければというふうに思います。

申しわけございませんでした。以上です。

名取委員長 ありがとうございました。

それでは、歴史について御質疑はございますか。細野委員からは、特にありますか。

石川教育長 1点ございます。細野委員からは、歴史について、歴史をできるだけ客観的な事実で記述している教科書はどれか。歴史観がある程度明確である必要もあるが、事実が率直に述べられている教科書が望ましいと思うので、それはどれかということですが、よろしくをお願いします。

新藤社会(歴史)調査部会部長 客観的な事実ということで、私たちも、重点調査項目の(3)ですね、多面的、多角的に考察するというあたりで、かなり重点を置きました。そういった意味から、重点項目3の 統計表等客観的な数字の裏付けということで出させていただいたところです。それがどれかということにつきましては、この調査結果で御判断いただければというふうに思います。

あと、歴史観につきましては、私たちは、ともかく、歴史的事象が客観的な事実として挙がっているということを重視しておりましたので、それが、今日的課題の(3)のあたりの調査だというふうに思っていただけだと思います。

小田原委員 項目を並べることと、細野さんが言っている、率直に事実を述べているということとは、少し違うんですね。項目を挙げていることで判断しろというのは、答えかなと思います。例えば表現のところと、僕は、関係するのかなと思います。ほかの教科も、表記、表現のところではこういうふうな調査報告になっているんですが、特に歴史とか、公民とか、地理とか、社会科の場合、家庭科もそういう部分があるとは思っているんですが、その表現が、これは客観的なのかどうなのか、歴史観なのかというのは、そこが問題になるだろうというふうに思うんですけど、例えば村なら村という成り立ち、村が成立してくるとか、これもなかなかわからない部分ですね。遺跡から考えていかなきゃいけない部分だろうけれども、それを言葉の上で、言葉のいわゆる語源ということで言えば、村とか国は、語源

がかなり関係してくるかなというふうにも思うんですが、その村についてどういうふうに表示しているかというのは、そのほかの歴史的事象にも当てはめて考えていかなければいけないんじゃないか、そこを細野さんは質問していると思うんです。僕も同じような質問をしようと思っていましたので、そこはいかがですか。

新藤社会（歴史）調査部会部長　具体的にはどの点でしょうか。

小田原委員　何でもいいですが。

新藤社会（歴史）調査部会部長　具体的には、村というお話が出ましたけれども、この報告で言いますと、どのあたりのところで御指摘がございますでしょうか。

小田原委員　朝鮮出兵でも、二つの世界大戦でもいいんですが、報告書でない点で言いますと、例えば教育勅語についてはどうなのかとか、あるいは米騒動の表現をどういうふうに見るかという。今のお話を聞いていると、項目の違い、あるいは課題として挙げている数字というのはわかるんですが、これが、数の大小で判断しろというふうに言われれば、「はい、そうですか」と聞くんだけど、言っている話が、教科書によっては、逆という言い方もおかしいかもしれませんけれども、その説明の仕方というのは、微妙に交錯しているんですよ。

新藤社会（歴史）調査部会部長　その点につきましては、確かに微妙に交錯しているというのはございます。そこで報告書の中の印があると思うんですが、例えば「大東亜戦争」というふうに本文で書いてある、あるいは「太平洋戦争」と書いてあるというあたりがちょっと例としては出るかなと思うんですが。それにつきましても、各社、多少本文ではそういう違いはございましたけれども、必ずそこに注釈として両理解についての記述がございました。ですから、そういう意味では、本文そのものの中には多少は微妙な交錯はありましたが、それぞれにつきまして、欄外であるとか、注釈という形では、双方の立場からの字句規定といえますか、言葉はございました。そんな意味で言いますと、やはり教科書の範囲ですので、それはクリアできているかなというふうに思いました。

小田原委員　ちなみにお聞きしますが、「朝鮮出兵」と「太平洋戦争」というのは、この調査項目の中の用語として出てくるんですよね。

新藤社会（歴史）調査部会部長　はい。

小田原委員　これ、何か根拠があるんですか。

新藤社会（歴史）調査部会部長　調査部としての根拠をこれで規定したかということですか。

いえ、それは、特に規定しておりません。教科書調査ですから、より多く教科書として使わ

れているという、そのことで一般性という言い方はまた、間違いかもしれませんが、より多く教科書に使われている表現で、ここに出しました。

齋藤委員　今の世の中でも、いろいろと難しい教科だというふうに思います。先生方の御苦労も非常にあったかと思えますけれども、1つお伺いしたいのは、歴史は、おそらく細野先生の質問の中にもありましたが、非常に客観的な歴史の事実というものがございますよね。それをやっぱり各社よく読んでみますと、その事実を淡々として述べている教科書と、あるいは、それでどうなんだと、これからの日本はどうしていったらいいのかとか、こうあるべきだろうみたいなことを、比較的作者の先生ですね、教科書を編成している先生方の意見というのがちょっと表面的に出ている教科書があるというふうに、私は少し思ったんですが、そのあたりというのは、例えば現場の先生方が、この歴史という教科書を教えていくというときに、何か問題になったり、扱いにくいなといったことはありませんか。どちらのほうがいいんですか。ある程度方向性が示されていていっているもののほうがいいのか、事実だけを淡々と書いている教科書のほうが扱いやすいのか、そのあたりは、率直なところでどうなんでしょう。調査委員会の中でも、そういうような話は出ませんでしたでしょうか。

新藤社会（歴史）調査部会部長　そのことを議題にして調査委員会で議論したということではございませんが、調査をしていく中では、そういう話はございました。やはり、私たちは3分野の中の1分野としてやっております。そういうことの中では、いろんなその時々、公民との分野の中のかかわりで、今おっしゃったような方向性みたいなものが出てくることはあると思います。ただ、教科書としては、やはり事実をきちんと押さえていくということを第一義的に考えております。

齋藤委員　各社が、導入の部分などに非常に苦労しながら、興味を持たせながらやっていくというところが見受けられるのはわかるんですが、例えば1社については、神話の話なんかも出てきますね、そのあたりなどは、先生方のお考えとしては、客観的な事実というようなどころから考えると、どういう位置づけになっておりますでしょうか。

新藤社会（歴史）調査部会部長　これも、調査会のほうで、このことを取り上げて議論したということではございません。ただ、全体を各社概観する中での話でございますけれども、あくまでも歴史的事実ということとか、民族学的な国民がございませぬ、生活に密着したとか、あるいは国民の考え方であるとか、国民の情念であるとかという意味で、きちんと教員のほうでは切り分けて、この教科書の活用というふうに考えております。ですから、使う教

員につきましては、その辺は切り分けていきますので、それを有効に活用することは可能ですし、それを事実と混ぜてマイナスにするということはないと思います。

名取委員長　ほかにいかがですか。

小田原委員　各社というか、1社だけ除いて巻頭とか序章ということが触れられていないんだけど、そこは何か大きな違いというのがあるというふうに見ていいんですか。

新藤社会（歴史）調査部会部長　大阪書籍に巻頭とあることですね。

小田原委員　いや、具体的に言うと、扶桑社については、巻頭、序章のところが触れられていないんですね。特徴を言えば、扶桑社の序章は、一人一人の生き方という特定のところを強調した後で、身近な人物の起源を調べていこうとか、まとめていこうとか、それを発表しようというふうなことがあるんですよ。ところが、そののところが触れていないわけね、あるにもかかわらずですよ。それ、小学校の連続だと見るのか見ないのかという、そういう違いになるんですよ。もう1つ、それは、公民に行きますと、公民で触れているのは、今度は清水書院に、そののところがきちんと序章で示されているということです。だから、このところが大きな特徴だなというふうに思っていたんだけど、そこがあえて触れられていない。ほかの7社については、巻頭、あるいは序章、あるいは第1章というところについては触れているのに、何かあるのかなということです。

新藤社会（歴史）調査部会部長　あえてという意味ではございません。先ほど申し上げましたように、小学校との関連ということでここを見ましたので、それでということです。広げてこれも小学校というふうになればということもあったんですが、一応調査会としては、あくまで小学校と、学んできたことの、最初に中学校で出会うという、その観点から調査をいたしましたので、ここに出なかったということです。

小田原委員　発展教材についての御指摘があったんですが、これは課題解決学習との関連が非常に大きいというふうに思うんですが、どうも見ていったところ、発展教材というふうに言っているけれども、これはほんとうの発展教材というふうに言えるのかな、そういうふうには呼んではいるんですけどね。あるいは、そういう中として扱おうとしているけれども、これはそういうふうに「課題発見」という言葉があったんですが、課題発見をして、さらに指導要領を越える部分もあるし、あるいはもっと他の教科とか、科目と関連させて、発展させていくというようなことが発展だろうというふうに理解したいんだけど、そういう点で、ただコラム的に扱っているのではないとか、あるいはその問いかけが、いわゆる発展じゃ

ない問いかけではないかというふうにも言えるところがあるんですが、いかがですか。

新藤社会（歴史）調査部会部長　細かくほんとうに精査していきますと、小田原先生がおっしゃいましたように、ほんとうに発展的な内容であるのかということにつきましては、出てくるのかなというふうに思っています。ただ、全教科書すべてを細かく精査したわけではございませんので、そこまで答えることが現在できません。ただ、私たちが一応線を引きましたのは、基礎字句を補充するということあたりから「発展」という言葉を、字句としては使わせていただいております。そんなふうに理解していただければと思います。

石川教育長　重点調査項目の中で、二度の大戦というところがあるわけですがけれども、各社大体同じようなページ数を割いているわけですがけれども、扶桑社については、随分項目が多い。本市の歴史の授業実態からして、ほかのところと、この辺の、要するに項目の軽重で、授業実態の中で十分指導ができるのはどの辺なのか。もちろん、教科書を教えるか、教科書で教えるかによって随分違いがあると思いますけれども、その辺の実態から踏まえて、このようなところから、ちょっとお答えいただけますでしょうか。

新藤社会（歴史）調査部会部長　今おっしゃいましたように、非常に項目として数が多いということはございます。そのことは1つ、授業の中では多くなりますので、負担か負担でないかというのは、かなり教員の授業の工夫がいるところだろうというふうに思います。あと、やはり漢字が多いということにつきましても、なかなか今になじみのない言葉ですので、そういった意味では、子供たちには少し負担のかかることはあるのかなというふうに思っております。ただ、やはりこれも、教員の授業の工夫と、流れの中で解決できるというふうに思います。

名取委員長　よろしいですか。

斎藤委員　1つの特徴として、例えば挙げております扶桑社のほうで、「歴史ドラマにチャレンジ」でロールプレイというのがありました。私もこれ、おもしろいなというふうに思ったんですね。一方で、帝国書院のほうでは、「地域調査に出かけよう」とかというのがあって、地域に出て行って、いろんな調査を試みようなどという、これ、なかなか2社おもしろい取り組みだなというふうに思ったんですが、ちょっとお伺いしたいのは、その時間数等で、実際問題、例えば歴史ドラマにほんとうにチャレンジしようとするならば、1時間でぽっどできる授業ではないですね。また、地域調査に出かけようとしても、当然事前準備もあるでしょうし、実際に出かけて行って、帰ってきてからのまとめということになってきますと、

現実的な授業を進めていく時間数の中で、可能なんでしょうか。例えばこれが大きな特徴としておもしろいと思っても、実際先生方の行う授業の中で、時間数としてこれが物理的に無理だ、まずできないだろう、もちろん、いろんなやり方によってはできる学校もあるかもしれませんが、現実的にはかなり苦しいなというものであるならば、絵に書いたもちという形になるわけですが、そのあたりは、現実に授業を行っている中で、可能ですか、例えばこういう取り組みというのは。

新藤社会（歴史）調査部会部長　　全般的に言いますと、やはり授業が非常に今減らされている中、厳しいです。ですから、毎回毎回これに沿って、こういう学習活動をするということは不可能だというふうに思います。ただ、やはりこれだけ大きく個数が提示されておると、教員にとっての授業の工夫の1つの指針であるとか、あるいはチャレンジのロールプレイにつきましても、何回かに1回はできますね。それからあと、もう1つ、やはり授業の終わりに、例えば「あなたは中大兄皇子だったらどうだったろうね」というような授業のまとめとしてこの手法が使えるとかという意味で、この手法が提示されたことは、いろんな活用方法が、期間とか、場面を制約しない形で使うという意味では、決して絵にかいたもちではないし、有効だというふうに思っております。

名取委員長　　ほかにはいかがですか。

斎藤委員　　もう1点、ちょっと違った視点からですが、先生のほうの説明にもありましたが、日本文教出版の中で、「女性と子どもの歴史」というものが非常に充実して、No.1から7まで、ページ数を割いて取り上げております。これはやはり、次の公民のほうにもつながってきます。最近、新聞紙上で非常に話題になっている男女共同参画社会というようなものにつながってくる内容なんだろうなというふうに思いますが、このあたりについては、調査会のほうで、比重としてはどうですか、このあたりの取り上げ方は。やはり、この社が非常に充実、思い切り取り上げたところですよ。あとの社も、多少は出てくるんですが、この歴史の教科書の中では、簡単にしか扱っていない中で、この社が非常に力を入れている。このあたりは、調査会の中で話題にはなったでしょうか。

新藤社会（歴史）調査部会部長　　やはり1つの視点から、ずっと時代を通じてテーマを追いかけていくというのは、この社が、私たちが出会ったのは初めてでしたので、そういう意味では目を引かれましたし、調査会の中でも、非常に取り扱いとしてユニークだし、新たな可能性があるという話はございました。ただ、これが教科書を選ぶ決め手になるかという話に

なりますと、これはまた、別かと思いますが、やはり、こういう新たな取り上げ方をしても
らえれば、授業の中でも1つテーマ史ということが出てくるのであろうというふうには思っ
てはおります。ですから、新たな分野を開拓したという意味では、教科書の中で画期的だな
というふうに思っています。

名取委員長　ほかは、よろしいですか。

どうもありがとうございました。

以上で、歴史に関する質問は終わらせていただきます。

ちょうど午前中の時間が終わりましたので、ここで休憩に入りたいと思います。午後の部
は、13時から再開したいと思いますので、そのようによろしく願います。どうもごく
ろうさまでした。

【午後0時01分休憩】

【午後1時00分再開】

名取委員長　それでは、午前の部に引き続き、再開いたします。

それでは、次の種目、公民について、検討委員から報告願います。

齋藤社会（公民）調査部会部長　ただいま社会科の公民的分野の調査報告をお許しいた
きましたので、ただいまから報告書のほうを中心に、報告させていただきたいと思
います。よろしく願います。

まず最初に、報告書に変換ミス等があり、大変教育委員の先生方に御迷惑をかけた点をお
わびして、これから報告書について、要点を中心に、また、各社の特徴をとらえながら、補
足説明をさせていただければと思っています。どうかよろしく願います。

まず最初に、内容項目について御報告をさせていただきます。内容項目の項目については、
興味・関心を引き出す配慮という点を中心に、各社を見ていきました。その中で、どの社に
おいても、中学生と同世代のキャラクター男女を登場させて、学習活動の進行役という役割
を果たさせています。その中で、特に大阪書籍については、鉄腕アトムの登場人物を冒頭、
導入部分で利用しているというところが、非常に特徴的なところでした。

続いて構成及び分量の構成のほうに移っていただきたいと思います。特に公民的分野の構
成につきましては、学習指導要領の公民的分野の構成では、大項目が3つあります。1つが、
現代社会と私たちの生活、2つ目が、国民生活と経済、3つ目が、現代の民主主義政治とこ

れからの社会と、この大項目3項目からなっています。これまで八王子市では、歴史的分野と地理的分野を1、2年で並行学習を行って、3年で公民的分野の学習を行うという、社会科の場合、「型学習」と言っていますが、3年で公民的分野の学習をするに当たっては、特に歴史的分野の学習を踏まえて、公民的学習に進んでいくケースが多くて、どちらかという政治的分野、政治的内容を先に学習し、その後に経済的分野の学習に入るというような展開が一般に行われてきているところです。

そんなところで、各社が、特に政治学習、それから経済学習、どちらを先にしているかというところが1つ、構成のところでのポイントになりました。報告書にあるように、学習指導要領と同じ形で、経済、それから政治という形で構成しているのが、帝国書院と、扶桑社と日本書籍新社でございます。

先ほどお話ししたように、八王子の場合は、これまで政治学習のほうが先に来ていました。そんな中で、今回調査委員の調査の中で、話として意見が出たのは、経済学習から政治学習の構成の中では、帝国書院の「現代社会と私たちの生活」から「国民生活と経済」という展開がよく工夫されているなという意見が出ておりました。

続いて、基本事項の押さえと補充教材についてです。これについては、東京書籍の章末が学習確認と重要語句やワークシートがあるだけでなく、生徒みずからその章に行った学習についての自己評価をできる「自己評価表」がついてと、非常にこの点を特記すべき部分だと思います。あわせて、教科書の最後に用語解説として、64項目にわたって項目が設けられていました。この部分だけで言うと、副教材の購入も必要なくなるのかなというような点があったかなと思います。

それから、発展教材のことですが、簡単に言いますと、学習指導要領に示していない内容を取り扱っているということについてですが、これについては、東京書籍、大阪書籍、教育出版、この3社が扱っておりました。特に、東京書籍については4項目と、他の2社よりも多かったということがわかりました。これらは、選択学習等でも利用できるのかなということです。

次に、表記及び表現についてですが、これについては、「ですます」調、また、「である」調ということで、各社それぞれありますが、どちらにしても、どれが使用しづらいかという点で言えば、特に使用しづらいということはないという調査委員会のまとめでした。

文字の小ささという文字のポイントについてですが、小さいという面では、比較になって

しまいますが、扶桑社と日本書籍新社のものが小さかったかなというところです。

また、1ページないし2ページの見開きにした場合のイラストや写真、本文などの配置構成について見ると、扶桑社のものは、文書量がページによって紙面の3分の2ぐらいを占めているところもありました。

次に、使用上の便宜について報告をさせていただきたいと思います。1時間の授業ということで考えた場合に、その全体構成がわかりやすいかどうかという点で調査をしました。報告書に出ていますように、2ページ見開き構成でおおむね1時間の授業という構成をしている会社が、東京書籍、教育出版、清水書院、扶桑社、日本書籍新社です。また、1時間の授業の中で、その学習の取り組み内容について、この授業ではこういう内容について学習していきますよということが欄外に書かれている、課題が提示されている、そういう社が、清水書院、扶桑社、教育出版、あと日本文教出版がありますが、日本文教出版の場合は、単元の始めにすべての課題を載せているというところが、前者の会社と違うところでした。それから、授業の始めに、きょうはこういう授業内容を学習していくんだと、あわせて授業が終わるところで、さらにこういうことを発展的に学習していったらどうだろうかということを欄外のところに載せていた会社が、帝国書院、日本書籍新社、大阪書籍、東京書籍ということになっていました。

次に、八王子という地域との関係で、各教科書がどんな形で取り扱っているかなというところを調査しました。これについては、教育出版社が教科書の巻頭、見開きの部分で、八王子市の防災マップを出しておりました。また、扶桑社が、課題8「私たちの町を点検してみよう」という項目で、八王子の広報と、それから、市税百科の表紙が載った写真を1枚、掲載していました。

また、内容面で見たときに、本市の場合は、租税教育の推進ということに当たって、八王子市租税教育研究委員会ですか、中学校の社会科の学習資料として、「私たちの生活と税金」という副読本を毎年作成しています。各学校で利用しているところなんですけれども、その意味で、都内でも租税教育の副読本があるというのはまれな地域で、非常に利用価値が高いんですが、そういう点で言うと、経済的な学習の内容で、特に納税者の記述等がしっかりしていたのかなというのが帝国書院という調査委の結果が出ています。そういう意味で、租税教育の部分とあわせて、指導しやすいのかなと思われます。

続きまして、重点調査項目のほうに移っていききたいと思います。重点調査項目の設定は、

そこに5項目設定をさせていただきました。それについては、学習指導要領を踏まえて、設定をさせていただいたところです。

重点項目の1点目、調査・討論など多様な学習活動を取り入れているかという観点ですが、これについては、社会科が資料を選択し活用する学習活動を重視して、また、体験的、作業的な学習を充実していかなければいけないという観点から、どのような学習活動が取り入れられているんだろうかというところで調査をしたところでございます。

東京書籍ですが、ハンバーガーショップのシミュレーションをするというのがあります。幾つかあるんですけども、代表的なものを取り上げて、ここでは報告をさせていただければと思います。東京書籍のハンバーガーショップのシミュレーション学習、これは現在も掲載されているもので、目新しさがないんですけども、大変適した学習活動という意見がありました。

大阪書籍ですが、株価の動きを調べようということで、新聞の株価の記事から株価のグラフ化をしていく作業学習を通して、株価の動向、経済の内容を学習していこうというものでした。

教育出版は、模擬裁判の勧めということで、これはシナリオも掲載されているところで目立ったところでございます。

清水書院は、報告書の冒頭部分でも、内容のところでも挙げたんですが、対話学習活動については、教科書の最初の単元のところで集中的に載せているというところが、非常に特徴だったと言えます。

帝国書院は、選挙ゲームが、他社にないものでありました。これについては、やはり、どのような形で進めていくかということで、2ページ使われていたところです。あとですけれども、交通バリアフリー法がここで成立して、それについての国の関係機関を考える活動ということで、そういう今日的な課題に対応した法律なども、教材として使っているところは、注目されたところでございます。

日本文教出版。ここで特に目立ったのは、貿易ゲームです。今日の国際社会を体験させるには非常にいい、体験的な活動ではないかなと考えます。紙や鉛筆、はさみというような道具をもとにして、きちんとした三角形、これが製品になるんですが、これをつくると。それを、材料があるか、それからお金があるか、そういうことがそれぞれ規定されていて、南北問題を含めた学習もできるということで、国際社会の学習には大変適した学習活動が例示と

して出ていました。

扶桑社については、ディベート学習、これは他社に比べて、学習活動の説明が6ページにわたって紹介されているというところが、非常に特徴的なところでした。

日本書籍新社ですが、ここは車いすとブラインドウォークの体験ということで、他社に比べて大きくこの部分を取り扱っていたところでもあります。

次に、重点項目(2)の具体的事例の取り扱い(地域の特性や生徒の実態に適した内容になっているか)ということなのですが、この項目を取り上げたのは、日常生活と関連づけながら具体的な事例を通して政治や経済について、見方や考え方の基礎を養っていかうということです。特に国民的分野の場合は、どうしても高度で抽象的な内容や細かい事柄を網羅的に扱ってしまって、用語の説明で終わってしまうようなことになりがちです。そういう点を克服して、生徒たちにしっかり見方や考え方の基礎を培うには、具体的な事例をもとにして行うことがいいという点で、ここでは先ほどお話ししたような大項目の中からそれぞれ1つずつやりました。1つは個人と社会生活、1つは金融の働き、1つは地方分権と住民参加という、3項目で行ったところでもあります。その中で、3つを細かに説明すると時間もなくなってしまいますので、その中の地方分権と住民参加を中心に見ていきたいと思います。

ここでは、特に中学生の住民投票の例を、どの社も取り扱ってありました。この中で特に大阪書籍が、西日本の事例を際立って取り扱っていたところが特徴でした。

続いて重点項目の3点目、地球環境、それから資源・エネルギーの問題についてと、ここで適切な課題を設けた学習を取り入れられているかどうかということですが、今日的な課題として国際的な協力や強調の必要性に着目させる、また、身近な地域の生活と関連させたり、世界的な視野とか、地域的な視点から地球環境、資源・エネルギーの問題に課題を設けて追求できる工夫がなされているかということです。これについても、それぞれ今日的な課題をどの社も取り扱っているところです。ここで際立っているところは、写真という点で言いますと、扶桑社は、環境、エネルギーともに写真が1枚ずつというところが、目立ったところでもあります。

その次、重点項目の4点目になりますが、資料の収集、処理や発表などに当たって、コンピュータ、情報通信ネットワーク、教育機器の活用を促すような題材や学習活動の事例があるかということです。今日的に非常に通信機器、また、コンピュータの情報通信ネットワーク、情報機器の利用ということが大きな課題ですし、社会科にとっても豊かな学習活動を展

開する可能性も出てきます。そういうところで見ました。資料にあるように、1社を除いてインターネットの調べ学習のことが出ておりました。また、関連ホームページのウェブアドレス、またはホームページアドレスという一覧も出ている会社が4社あります。そんな中で、1社、ネットワークの検索をするためにキーワードということ帝国書院が載せておりましたが、こういうものは生徒の発展学習などには役立つのかなというふうに、委員の中で意見が出ておりました。

それから重点項目の5点目、目次から本文以外で学習課題についてどのようにまとまっているだろうかということで、これは学習課題についてということで、知識の偏りが少ないような指導が行われるかどうかというようなことが一つの観点、また、生徒の主体的な学習を促すということで、課題解決能力を養うという観点から、この項目を設定しました。ごらんのように、少ないところは4項目、多いところは22項目と、ページ数で言うと、8ページから32ページと、ばらつきがありました。これについては、各学校の実態に合わせて、または選択授業等で取舍選択ができればいいのではないかなというように思っているところでございます。

最後になりますが、公民の学習に当たっての最初の序章なんですが、公民学習をどう学んでいくんだろうかと、始めの部分について、最後、報告をさせていただきたいと思います。これについて、報告書のほうには出ていないので大変申しわけないんですが、追加させていただければと思います。

公民学習の理解のためにどんな工夫をしているかということで、冒頭部分ですが、東京書籍については、特になかったと。

大阪書籍については、「公民を学ぶに当たって」ということで、キャラクターの漫画を使いまして、文化祭の内容、1つのクラスは先生のトップダウンで、もう1つのクラスは生徒とともに考えながら、文化祭でどんなことをやろうかということなんですが、この中で、政治的経済的に国際社会の内容等についてみんなで考えていこうというようなことで、公民学習の入り口を説明しておりました。

教育出版は、「公民の学習を始めるに当たって」ということで、こちらは1ページと。

大阪書籍のほうは、漫画形式で5ページでした。

教育出版は1ページなんですけれども、「公民とは」ということで、選挙権を持っていて、積極的に政治や社会に参加する人たちを指す言葉ですというようなことから入っています。

これは、中学校を卒業した先輩からの手紙という形で構成をされているところでございます。

清水書院は、「学習の始めに」、これは2ページですが、3段落の構成。「公民て何だろう」と、それは共存と共生、現実を学ぶこと、理想を求めることということで、非常にわかりやすくまとまっていたかなと思っています。

帝国書院については、「学習の始めに」という項目で、こんなふうに書いてあります。「公民では」ということで、「自分なりの考えをつくり上げ、中学生でも貢献できる活動について考えていきましょう」と。また、「人間らしく生きることのできる社会では、権利を主張するだけでなく、他人の権利を尊重し、お互いの役割や責任を果たすことが大切です」というような表現をされておりました。

日本文教出版社ですが、こちらは「環境を考えよう」ということで、2ページ、写真構成ですが、その中で、「地球的規模で考えて、足元から行動をとというようなことで、私たちの暮らしや生き方を日本の社会や経済、さらには人類の歴史や地球全体のかかわりの中でとらえて常々やっていきましょうね」というようなことでした。

扶桑社については、「公民とは」ということで、2分の1ページが当てられていました。内容としては、古代ギリシャの哲学者アリストテレスは、人間は集まって国をつくり、暮らす存在だと考えた。社会をつくって存在する人間は、常に2つの側面を持っていると。私と公、それから、古代ギリシャの都市では、市民と公民は同じ意味であった。ところが、近代社会では、私の権利や、私の利潤追求が強くとらえられて、市民と公民が分離する傾向にあったと。本来、市民と公民とは別々のものではなくて、重なり合うはずのものであると。そこに公民の意味があるというような形で、「公民とは」という解説があって、学習活動が始まるというものでした。

日本書籍新社のほうは、「学習の始めに」ということで、こちらは2ページを使って、広島で原爆で子を失った女性の詩が、冒頭で出ておりました。その後、生きるとは何か、なぜ公民を学ぶのか調べ、学び合いを大切にしようという3段構成で、公民学習の意義みたいなものを説明しておりました。この部分で、それぞれ各社は、どういうスタンスで公民的分野の教科書をつくっていくのかというのがわかるのかなというふうに、委員各位から意見が出たところでございます。

以上で報告を終わらせていただきます。ありがとうございました。

名取委員長　　ただいま検討委員会の報告は終わりました。

公民について、御質疑はございますか。

石川教育長 細野委員からの質問ですけれども、公民、国の仕組み、日本が現在置かれている状態、あるいは社会問題について真正面から取り組んでいる、気概のあるテキストはどれかという質問です。

齋藤社会(公民)調査部会部長 今回の御指摘ですけれども、公民的分野ですと、国の仕組み、また、その置かれている現状、社会問題についてというところでは、各社ともそれぞれ、正面から内容面でまとめているというふうには考えております。気概があるかどうかというのは、いろいろとまた、個人の問題もあると思うので、その部分については、調査委員会の中では検討していませんので、内容を正面から取り扱っているかということについては、どの社も同じように取り扱っているということが言えます。

以上でございます。

齋藤委員 どうも御苦労さまでございます。今の細野先生からの御質問にちょっと関連するかと思うんですが、やはり重点項目が幾つかに分かれておりますけれども、どうしても公民というこの授業は、政治、経済とももちろんダイレクトにつながっていますので、世の中の動きというものに対して絶えず生きている教科だというふうに思うんですね。そういう意味から考えても、やはり領土の問題のことですか、あと、拉致の問題だとか、これは各社によって取り上げる頻度というか、内容が、ちょっと差があるなというふうに、私なりに読み取ったんですが、このあたりは、重点項目の中には調査委員会のほうとしては取り上げなかったのは、あまりそういう意見がなかったのか、何か意味があって、あえてこの調査表から外されたのかをお伺いできたらと思うんですが。

齋藤社会(公民)調査部会部長 冒頭にも、重点項目をなぜこういう項目にしたかという御説明をさせていただいたと思います。1つは、学習指導要領の内容の取り扱いという部分を中心に今回考えていったということ、もう1つは、領土問題、拉致問題については、東京都のほうでも、同じような形で教科書の調査が行われていましたので、その資料を私たちもあわせて使えるかなという点で、あえて項目に入れなかったというふうに説明をさせていただいたと思います。

小田原委員 御説明の中で、公民の大区分が3つあるというお話ですね。そのお話の中で、政治から八王子は入るという御説明だったんですが、4月から政治から入るということですか。

齋藤社会（公民）調査部会部長　言葉が足りなくて大変申しわけありません。基本的には、大項目3項目ある中で、最初に日本の現代社会と私たちの生活を終わった後に、政治に行くのか、経済に行くのかということと、また、1、2年生で地理と歴史をやっているという中で、どうしても歴史の授業がなかなか2年生で終わらない実態があるという中で、2年生の歴史が3年に少し食い込んで、それが現代史まで入ってきますので、それを受けた形で3年の授業が入っていった場合には、現代社会と私たちの生活の後に政治をというような展開のほうがわかりやすいのかなということ、これまで本市ではやってきているところであります。

小田原委員　その回りは、順序が逆でも一向に構わないというふうに考えてよろしいですか。

齋藤社会（公民）調査部会部長　教科書について言いますと、政治から経済へ、また、経済から政治へという、各社それぞれの考え方がありまして編集していますが、大きくは支障がないのかなと思っています。ただ、学習指導要領にあるような基本的な考え方に立てば、経済から政治へ行くほうがいいのかとは、調査委員会としても出ております。

石川教育長　8社ある教科書のうちで、指導要領を越えて、要するに指導要領に示していない内容を取り上げているのが3社あるわけですね。取り上げていない出版社が5社ある。これらの取り上げている3社の内容を見て、やはり取り上げていて、ああ、なるほどなというふうに思うのか、あるいはあったでいい程度のものなのか、特になくてもいいものなのか、その辺のところはどうでしょうか。

齋藤社会（公民）調査部会部長　それについては、例えば具体的な例ですが、東京書籍でパレスチナ問題を取り扱っている。中東戦争、また、パレスチナ問題の歴史というような取り上げ方をしていますが、この問題については、歴史、いわゆる世界史のほうはやっていませんので、突然、大きな経済的、政治的な流れの中で、ぽんと出てきたときに、学習をしていても見えない部分が出てくるのではないかと。そういう意味では、こういう内容、問題を、発展的な問題として出ているのも、非常に学習には有効かなと。ただ、出ているものはすべて取り扱うということになった場合には、公民の授業は85時間しかありませんので、なかなか授業時数としては厳しいですから、この部分は取捨選択をするような形で、場合によっては、先ほどのお話のように、選択の社会科というような部分でも、十分取り扱っていけるのではないかなと。ですから、教科書すべてを教えるというのはなかなか無理だと思いますが、そういう発展的な内容もあれば、いろいろと授業展開の中で、選択社会を含めて利用価

値は高いかなと思います。

齋藤委員 指導要領から少し外れる内容になるかもしれませんが、先ほど、歴史のときにも質問をさせていただきましたので、男女共同参画社会、このあたりを取り上げている教科書と、なかなかそうでもないようなところもありますが、具体的に言いますと、例えば教育出版あたりはかなり詳しく取り上げられていたような気がするんですね。片や扶桑社あたりが、この問題についての課題という形で、逆にちょっと問題点を浮き彫りにさせているようなところがあったような気がするんですね。このあたりは、調査会の中では、どのくらいの形で、この男女共同参画社会というものは、ウエートとして置いていらっしゃるのでしょうか。

齋藤社会（公民）調査部会部長 調査部会の中で、男女共同参画社会ということにどういうウエートを置いているかというようなお話でございました。公民的分野、男女共同参画社会の中で構成する男女の問題を含めて、非常に大きな問題として、私たちのほうも考えてみました。その中で、男女共同参画ないし男女平等という中で、それぞれ扱っている会社というのも調べたところなんですけれども、横並びに並べたときに、随分そこで、比較する部分が難しかったものですから、この調査報告書のほうには盛り込まなかったというところがあります。

名取委員長 あとは、いかがですか。

小田原委員 調査の観点の1番から4番までと、重点調査項目の5番の項目は、同じ選定委員の先生方が、同じスタンスで調査していたわけですか。

つまり、この報告書を見ると、5番目のところは、各社の、いわゆる量的な部分の比較になっているんです。その中で、前の4番までのところの比較の仕方と違って、粗いというのか、あるいは細かく見ていないのではないかという感じがするんです。例えば東京書籍のところでは、「6ページ」ということだけしか書いていませんね。この「6ページ」というのは、何なのかというと、「個人と社会生活」の項目については確かに6ページ割いているんですよ。ところが、その右のほうをずっと行くと「8ページ」ということで示されている清水書院の中身を見ると、タウンマップづくりとか、そんなのが入っているということですよ。ところが、東京書籍では、私のまちの多文化マップなんていうのと、前の節ですか、入っている。そうすると、もしここに示すとすれば、これは足さなければいけないんじゃないか。そのほかにも幾つか、ここには指摘しているけれども、こっちのところではないこと

になっているところがあるんですよね。だから、これは人が違ったからこんな形になったのかなという疑いたくなるんです。

齋藤社会（公民）調査部会部長　　そういう御指摘はあるんですが、どこで区切るかという部分で、検討委員会の中でやったものですから、その区切り方の部分が、委員御指摘のような、こっちも入るんじゃないかというところとの違いなのかなと。委員会としては、これは一人一人ばらばらということではありません。委員会の中では、一律でやりました。

小田原委員　　これは、例えば調査するに当たって、中身を言っているわけでしょう。具体的事例を通して見方や考え方の基礎を養うためにどういうふうに扱われているかということと言っているわけだから、区切りの問題じゃないと思うんですよ。

齋藤社会（公民）調査部会部長　　すみません、資料と課題ということで、「個人と社会生活」の項目を含めてそうなんですけれども、各社によって、目次の部分での内容項目の区切り方が違っていましたので、あえてつけ加えさせていただければ、そういうような点があったということで御理解いただければと思います。

小田原委員　　お答えいただかなくてもいいんですが、目次で考えるというのは、簡単な話なんです。中身を教えるわけでしょう、目次を教えるわけじゃないでしょう、そのところだけはっきりさせなきゃいけないんじゃないかと思います。これは、半ば意見ですが。

齋藤委員　　やはり教科書ですから、選定していくに当たって、細かいところまでいろいろと見たつもりではあるんですが、いわゆる政治と絡んだ話の中で、小泉首相と菅議員が言い合っている写真なんか載っていて、そのあたりについて、結構いろんな社が気を使いながら書いているなというのが、それなりに私は読んだつもりでいるんですが、1社の取り上げた写真の中に、もろに政党のたすきをかけたものが写っているのが、問題として上がりませんでしたか。私は、気になったんですけれども。

齋藤社会（公民）調査部会部長　　この各社の写真の中で、そういう政党色を、選挙のときの名前を消している社もありました。逆に、委員御指摘のような社もあったということは確認をして、どうなのかなということは、委員の中では、意見として出ていました。

名取委員長　　ほかにはいかがですか。

小田原委員　　ちょっと細かいことをお聞きしますけれども、先ほど将来は用語解説が不要かなと言う話がありましたけれども、公民の場合に、資料集ないしはワークブックというようなものを使うことが多いということでしょうか、あるいは、ほとんど使わないと、どちらな

んでしょね。

齋藤社会（公民）調査部会部長　多くの場合は、使っております。ワークブック、資料集、それ以外に用語辞典みたいなものも、副教材として使っている学校もあります。そういう意味では、用語辞典は要らないのかなと、そういう意味でございます。

名取委員長　ほかにはよろしいですか。

齋藤委員　先ほどの歴史のときでも同じような質問をさせていただいたんですが、やはり各社の特徴の中で、いろんなゲームをやってみようというのがある。先ほど先生のほうからもご紹介がありましたけれども、例えば日本文教出版の貿易ゲーム。これなんかは、私、記憶の中では、たしか昨年度、みなみ野中学校の公開授業の中で、体育館で大々的にこのゲームをやっていたというのを、私見せていただいて、これはおもしろいなと思っていたんですけども、なるほどこういうふうに取り上げられてきたかなと感心していました。ほかにも、例えば帝国書院のほうの選挙ゲームですとか、あとは扶桑社のほうでも取り上げているディベートをやってみようというのがあるって、こういうものというのは、先ほどもお話になった85時間しかない授業の中で、実際に各学校でやれる時間が具体的にあるのかどうか、実際やれているんでしょうか。

齋藤社会（公民）調査部会部長　貿易ゲームについても、個人的にも、かなり前に私自身もやったことがあります。御指摘のように、ここに出ているような学習活動がすべてできるのかと言われた場合には、なかなか難しいだろうと感じています。それについては、年間の指導計画を立てて、教科書に出ている内容の中で、それぞれの学校の実態に合わせて取り上げることになると思います。85時間という時間設定ですが、会社によっては、60数時間の単元構成という会社もあります。それについて細かい資料が、私たちも全社一律で得られませんでしたが、報告の中では載せていませんが、会社によっては、そういう形で予備の時間というところで扱うというようなことを説明しているところもありました。

齋藤委員　ということは、やはりここに書いてあるいろんなゲームは、やれる可能性があるという形で判断していてよろしいですね。1つの選択の、私らでもその参考にしたいんですが、うまくやりくりしながら、各学校でも、その努力で取り上げられる可能性が十分あるというふうに判断してよろしいんでしょうか。

齋藤社会（公民）調査部会部長　先ほどもお話ししたように、すべては無理ですが、やれると、全くどれもこれもできないということはないと考えます。

齋藤委員　これは、お聞きしている内容ではないんですが、この報告書が資料としておそらく残ると思いますので、4番の使用上の便宜のところ、地域の問題を取り上げられたときに、教育出版と扶桑社が八王子市を取り上げているという御説明でしたけれども、東京書籍のほうも、33ページに、八王子のコラムが、小さいですけども、出ておりました。もし、これを選択の資料として残すのであるならば、これも出ておりましたので、つけ加えておきます。

小田原委員　それもそうだけれど、さっき私が質問したのは、そういう部分でのあらが目立つんですね。例えば環境問題についても、教育委員会の中では、後で環境教育について話題というか、協議があると思うんですけど、これは、環境についても一つのポイントだと思いますけれど、京都議定書なんかについては、東京書籍だけが扱っているように見えるんですけども、これはほかの扶桑社でも出てくるんですね。そういうところは、この報告書そのものがすべてじゃないという話がありましたので、そういう部分がかかなりあると見ていいんじゃないですか。

名取委員長　そういうことで判断していくということで、よろしくをお願いします。

ほかに、よろしいですか。

ほかに御質疑はないようでありますので、次の項目に移ります。どうもありがとうございました。

それでは、美術についてお願いします。

入谷美術調査部会部長　それでは、美術について御説明をしたいと思います。

まず教科書全体を見ながら、4項目にわたって大きな視点をとらえながら見ていきました。内容、構成及び分量、表記及び表現、使用上の便宜と、4項目について各社進めてきたわけです。その中で、報告書にも書いてありますように、それぞれの教科書の特徴と申しますが、そこら辺を、私ども委員の中で見ながら、まとめてみました。

まず大きく、簡単に説明しますが、開隆堂については、1年生の導入時には、小学校からのつながりが考慮されているのではないかと、まず導入の段階では、そのようなところで入りやすいものだなというふうな見方をしました。

光村図書については、その中でも特徴として、表現の中に大変優しさといえますか、心を引きつけるような工夫、心に訴えるような表記といえますか、表現がされている。

日本文教出版については、なかなか紙面、観賞できるようなものが多くて、大変効果的な

紙面構成がされているというようなものでとらえてみました。

あと、大きな点で言って、3社並べたときに、サイズが違うんです。開隆堂、日本文教出版はA4判、それで、光村図書のほうについてはB5判。広げてみると、当然ながら、写真の図版の大きさ、それから文字の大きさ、そういったようなことからすると、内容そのものは大変充実しているんですけども、やっぱり美術の場合は観賞ということも大分ウエートを占めますので、そんなところから図版が大きい、あるいは説明文が読みやすいという点からすると、光村図書のほうは、少し残念だと感じます。ただ、1冊1冊見ていくと、それぞれ素晴らしい中身があるわけで、どうそれを評価していくのかというのは、私どもには選択権ありませんけれども、中身については、大変いい部分もあります。全体で見て、見る教科書、それから読む教科書、大きくそのような分け方ができるのかなと。光村図書については、修学旅行とか何か、事前学習や何かについて使おうと思えば、そういったような中身まで踏み込んだ、結構細かなところまで書いてあり、大変参考になるなということもあります。

もう一方で、子供たちが授業に入っていくために、興味、関心を持つ、そのようなところでは、目を引くということが、やっぱり観賞を含めて、興味、関心を持たせるときに一番大きなウエートを持つのではないかなというふうな、私たちもそういったような見方で、3社の教科書を見てきました。その中で、大きく分けていきますと、重点調査項目のほうに入るわけですけども、子供たちが一番入りやすい、そのようなところにはどこがあるだろうかというようなところ、そこで美術のほうは、4項目のほかに、重点調査項目として2つ大きくとらえてみました。1つは、同年代の作品が多いかどうか。その量だけではないんですが、これは生徒にとって、みずから、私もこころまで書ければいいんだというような意欲につながっていくということで、作家作品ばかりが網羅されているよりも、同年齢、同じ仲間の作品がそこにあるということで、興味、関心がわくためにも、頑張ればこのくらい、僕もできるんだ、私もできるんだという点では、大変いいのかなというふうなところで、生徒作品の参考例があるかということ、大きな視点の1つとしました。

それからもう1つの視点として、発展的な資料が豊富か、彫刻なら彫刻だけで終わらず、次に、私も何かつくってみたい、塊としてどうとらえていくかと、そのような見方。それから、デザイン一つとらえても、ポスターが次の発展、表示につながっていくとか、立体のものにつながっていくとか、次の授業へのつながり、発想の転換につながる資料があるかないかというようなところでも、見ていきました。美術は、ここ数年来の中で、大変授業時数が

少なくなってきましたので、その中で幅広く受けとめられる教材の幅を持った教科書というのがいいのではないかなというところでの、発展的な資料が豊富かどうかというようなこともあわせて挙げて、教科書のチェックをしてきたところです。

そういう意味で、興味、関心を引き出す上で一番いいのはどこなんだろうか、一番というのは、3社ある中で、なかなか甲乙つけがたいところがありますが、それぞれの特徴があって、大変苦労したところです。

名取委員長　ただいま検討委員会の報告は、終わりました。美術で御質疑はございますか。

石川教育長　細野委員からの質問は、1つあります。今の説明の中で大体わかる話なんですけれども、せっかく質問をしてこられたものですから。読んでいて楽しくなるテキスト、教科書はどれかという質問なんですけれども。

入谷美術調査部会部長　読んでいて楽しくなるというのは、これは美術の場合は、楽しいというよりも、自分みずからがつくって、ほんとうにできた、完成したと、そういう喜びを感じるものであって、見ただけでの楽しさというのは、もちろん、それは、見てこんなことができるんだというものは各社いろいろな形で載っておりますので、なかなか甲乙つけがたいというふうに思います。読んでいて楽しくなるというものではないのかなというふうに思います。

小田原委員　関連してなんですが、そうすると、どのくらい教科書というのは使っているんですか。どのくらいというのは、答え方がいろいろあるでしょうけれども、端的に使うんでしょうか。

入谷美術調査部会部長　これは、導入で十分使えるものだと思っています。それからもう1つ、今、使う使わないということからすると、これが参考資料、副読本的な部分も、美術の教科書の中には結構大きな要素があるなというふうに感じております。ですから、副読本的な扱いも、十分されているのではないかなというふうに思っています。

小田原委員　その際に、光村図書は、読み物が多いということで、大変参考になるとか、中身が充実しているという指摘がありながら、一方で、図版が小さいということで、他社の方が目を引いたり、印象的だということだったんですが、その図版などの大小というのは要素として大きいんですか。

入谷美術調査部会部長　子供に与えるインパクトというのは、これ、目から入るものというのは大変大きなものになるのではないかなというふうに思っています。

名取委員長　ほかには、よろしいですか。

ほかに御質疑がないようでありますので、次に移ります。ありがとうございました。

英語について、検討委員会から御報告願います。

島本外国語（英語）調査部会部長　よろしく申し上げます。英語科は、6社あります。6社の中で、報告書にありますように、内容、構成及び分量、表記及び表現、使用上の便宜、重点調査項目により、各出版社ごとに検討してまいりました。書いていることについては、大事なことを、それだけを説明したいと思っております。

まず、内容についてですが、東京書籍ですけれども、文法事項の配列が悪く、発達段階に即しているとは言えないと記述してあります。これはどういうことかと申しますと、1年生においては、助動詞の can 「～することができる」ということですが、can の使い方ですね、それが出てくるのが遅いということが1つあります。

開隆堂については、「聞くこと」「話すこと」に関する扱いが少ないということで、特にこの聞くことについては、例えば対話形式になっておりますけれども、だれだれとだれだれのおしゃべりを聞いてみようとか、そういうような状況だけで終わっていることであって、実際にそれをもとに自分から話をすることが少ないのではないかなということで、そこで学力の実態とはややそぐわない面があるのではないかなと思っております。

学校図書ですけれども、1年では1社だけ一般動詞から導入しています。ほかの出版社は、be 動詞から始まっているんですけれども、学校図書においては、一般動詞 like から始まっている。例えば「私は～が好きです」、そのように一般動詞から入っているということは、自分からコミュニケーションを図ろうとする、そういう意欲をかき立てるんじゃないかなと思っております。

三省堂ですけれども、4技能のバランス、これは教科書の Do it listen, Do it write と、そういう英語の4技能と言いますけれども、読む、書く、聞く、話す、その4技能ですけれども、そのバランスは、DO it ~でもってバランスがとれているのではないかなと思います。

教育出版のほうですけれども、4技能のバランスが悪く、学力の実態には即していないと感じます。特に、やや書かせることが少ないのではないかなと思っています。ですから、やはり先ほどの4技能のバランスの中で、「書く」ことが少ないのではないかなと思います。

光村図書ですけれども、一番最初のほうですけれども、興味・関心を引き出す題材が少な

い。それから、「絵が学校の漫画のような独特なものである」とありますけれども、挿入されている絵が、シンプルで、単純で、特に1年生の場合は、英語という教科に関することでは、ほかの教科もそうかもわかりませんが、やはり視覚に訴えるということも非常に大事だと思います。そういう意味では、ここでは絵が非常に単純かなと思っています。

それから、2番の構成及び分量ですけれども、まず東京書籍のほうですけれど、2つ目にある不定詞を2年と3年で分けて教えるということで、これはやはり、不定詞という1つの項目は、名詞的用法、形容詞的用法、副詞的用法とあるんですけれども、やはり同時に学ぶのがいいのではないかなと考えております。東京書籍は、2年と3年で分けて教えているということで、2年生の場合には、不定詞の名詞的用法、副詞的用法、3年の場合には、形容詞的用法と副詞的用法が入っております。このように、2つの学年に分かれて不定詞を教えるということは、ちょっとどうなのかなというふうに思いました。その次の発展教材をオプションで使えるよう工夫してある。これは、4種類に分けたプラスというのがあるわけですが、例えばリスニング、スピーキング、ライティング、それからマルチというのがありますが、その4つにそれぞれプラス設定されて、そこで実際にアクティビティ、要するに言語活動について十分できているのかなと思っています。

開隆堂ですけれども、文法のまとめのページにクイックQ&Aがあるということで、文法のまとめのページに、例えば1年生ですと104ページ、2年生ですと98ページですが、文法のまとめのクイックQ&A、すなわち質問してそれに答えるという形ですが、このクイックQ&Aが、基本文の定着には非常にいいのではないかなと思います。

学校図書は、3つ目の補充教材がよいと感じました。これは、アクティビティが充実して、多岐にわたっている。例えばそのアクティビティも、グループで行うもの、あるいはクラスで行うもの、あるいはペアで行うものとか、多岐にわたっていることがあるということで、アクティビティが充実していて、あまり補充教材を使う必要もないのではないかなと思います。アクティビティが充実しているということです。

三省堂にある文法事項の導入が機能的ではないということですが、これは、疑問詞のWhichあるいはHowですけれども、それを、目標文としては2年生で出てきているということで、本来ならば、この疑問詞も、1年の段階で出てくるべき内容ではないかなと思っています。それが2年生で出てきているということです。

教育出版、各課の始めにgoalを示しチェックできるようになっている。これは、失礼し

ました、各課ではなく各ユニットのことなんですけれども、各ユニットの始めですね。幾つかの課がありまして、それをまとめたものがユニットになるわけなんですけれども、そのユニットの最初に goal を示しているということです。要するに、そこで習う内容がどれだけ理解できているかというようなことを goal という形で示してありまして、それをチェックできるようになっているのがいいのかなと思います。それから、その次の不規則動詞の表が見やすく、日本語の意味もついていると。不規則動詞の変化表ですけれども、これは、2年生と3年生の教科書の裏についております。その不規則動詞の表に日本語の意味もついているので、生徒にとっては、ありがたいことかなと思います。

光村図書ですけれども、文字が小さいと報告書に掲載させていただきましたが、確かにちょっと小さいんではないかなと感じます。

その次に、3番目の表記及び表現ですけれども、これは、色彩とか、写真の配置等で見ていたんですけれども、東京書籍については、色彩がやわらかく目が疲れにくい。確かにある程度主観にもよるのかもわかりませんが、色彩がやわらかく、目が疲れにくいと感じます。

あとは、どちらも同じような感じを受けますが、教育出版は、少し色がどぎついかないと思いました。というのは、絵の黒枠の線が太いことがあって、特に1年生の場合ですけれども、見ていて、目が疲れるかなと、そういう気がします。あとは、特にございません。

それから、4番目の使用上の便宜ですけれども、東京書籍にある、各ページにまとめがあり、Q & Aがあるということで、やはり質問に対する答え方がどうであるかということで示してあるのでいいのかなと思っております。それから、その下の新出単語のまとめ方がよいと。それは、新出単語について2つに分けてありまして、まず1つは覚えたい語句、もう1つはその他の語句というように、必ず覚えなければならない語句と、それから、あとは参考程度というか、覚えているほうがよいというような感じで、覚えたい語句とその他の語句に分かれているというのが1つのポイントかなと思いました。

それから、学校図書ですけれども、キーセンテンスがわかりやすい。これはどういうことかといいますと、各ページのキーセンテンスのわきに、三角形の2つ並べたマークで、ビデオの早送りを示す三角形のマークがありますね、それと似ているんですけれども、そのところに日本語で「～できるようになる」とか、「～するようになる」とか、そういうように、どういう表現をするのかということ、三角形の2つのポツのわきに日本語で示されている。したがって、生徒は、このページでは、どういう表現を勉強するんだなということがわかり

やすいんじゃないかなと感じました。

それから、同じ学校図書ですけれども、実際に触れることのできるページがある。これも、1年生なんですけれども、7課ですね、実際に点字のポツポツがついているわけです。ですから、写真でただ見るだけではなくて、その点字のポツポツがついているので、実際に手に触れることができる。ギザギザというのかな、それがついていて、今までの教科書にはなかった点ではないかなと思います。

三省堂ですけれども、各ページに4技能の活動が盛り込まれていると。そのところに、やはり先ほども言いましたように、Do it listen, Do it talk, Do it write が充実していると思います。

それから、光村図書ですけれども、「各ページにキーセンテンスが載っておらず、後ろにまとめられている」とありますように、各ページにはキーセンテンスがなくて、まとめて最後には出ているんですけれども、そのページでは、何を目標に勉強するのかということがわかりにくいことがあります。そのかわりに、光村図書のほうは、ユニットの最初のページに何を表現するのか、言い方なのかということが、四角の中に日本語で説明がありますけれども、各ページごとにそれがないので、そのページにおいては、何を勉強するのか、何を目標にするのかということがちょっとわかりづらいのかなと考えております。

それから、5番目の重点調査項目ですけれども、英語科では、トピックの題材、トピックの内容、トピックの特徴の3点について選びました。それはどういうことかといいますと、英語科は、実践的コミュニケーション能力の基礎を培う、養う、それが一番の目的かなと思います。そのためには、世界や、あるいは日本の日常生活や風俗習慣、あるいは歴史・文化等、さまざまな題材を通して学ぶことが大事かなと思います。そのために、そういったようなことが出ていることをトピックとして選びました。その選んだものが、報告書の表に出ているものです。その中で、6社とも、どのスタンスも、よく扱われているかなと思っておりますけれども、教育出版においては、外国について取り扱っている内容が非常に少なく、国際的な視野を広げる点では、やや不十分かなと思っております。

それと、全体的なことなんですけれども、少しダブるかもわかりまんけれども、光村図書ですが、学習指導要領に示していない内容が結構出ているところがあると。例えば関係代名詞の what とか、あるいは使役の動詞の make だとか、中学校では習わないような言語材料についても出ている。一番多く出ているのは、光村図書かなと思います。

それから、前後して申しわけないんですけども、まず、開隆堂ですけども、対話というよりも、会話になっているんですけども、1年生で、例えばレッスン1とレッスン2では3人の会話、レッスン3とレッスン4では4人の会話になっているわけですけども、1対1の会話というのは少なく、ペアでの音読等がしづらいのではないかなと思います。やはり1年生の場合には、多く、ペア・ワークも含めて、させることが大事かなと思います。それが、最初からちょっと複数の、3人とか4人とかの会話になっていると思います。

それから、学校図書ですけども、サウンドコーナーというのがありまして、そこは、読み方の注意があるんですけども、例えば基本的な読み方のリズムとか、強勢とか、音変化とか、区切り等、そういったものの注意が出ているのは、まねを先生がとって見せれば、いいのかなと思っております。また、学校図書は、1年生の過去形で、どこの出版社も扱っているわけですけども、1年生においては、規則動詞だけが出ていると。要するに規則動詞の場合には、過去形の場合には、一般動詞の後に、原形の後に -ed をつけるということになっているんですけども、不規則動詞は、それが、現在、過去、過去分詞形と、全部違うやつもあるわけですけども、規則動詞だけ扱っているので、生徒の負担が少ないのかなと思います。それと、学校図書の場合には、未来をあらわす will とか、be going to が同時に同じ課で学べるのは、いいのかなと思います。これは2年生のレッスン3で出てきます。その一方で、同じ学校図書ですけども、絵に多少なりとも不自然なところがあるのかなと感じています。

それから、三省堂なんですけれども、関係代名詞は3年生で扱うわけですけども、主格と目的格、それからまた主格、目的格というように、that, who,あるいは that, which とあるんですけども、主格なら主格、目的格なら目的格で並べてしまったほうが、生徒にとってはわかりやすいんじゃないかなと思うんですけども、主格、目的格、また主格、目的格と、そういうふうに出てきております。

それから、教育出版ですけども、1年の最初の段階から、単語が、新出単語ですけども、1ページにつき、結構多く出ているかなと。例えば10個ぐらい出ているのかなとそういうような感じで、最初からそういう単語が出てくるのはちょっとどうかなとこう思いました。

報告は、以上です。

名取委員長　　ただいま検討委員会の報告は終わりました。

英語について御質疑はございますか。

齋藤委員 御苦労さまでございます。今の説明の中で、1点、学校図書の中で絵が不自然と
というような御説明をいただいたんですが、具体的なところがわかれば。

島本外国語（英語）調査部会部長 教科書をちょっとごらんになっていただきたいんですけども、例えば1年生の場合ですけども、調査委員会でも意見が出たんですけども、絵の最初の部分、4ページのところなんですけれども、そのところで、アルファベットのaを使う単語の例示として、apple, apron が出ています。これを絵で表している部分、リンゴの上にエプロンがかかっているのはおかしいんじゃないかということ。また、12ページです、左側でサッカーやっている絵があるんですけども、2人だけでサッカーやるのはおかしいんじゃないかということです。そのようなところです。

名取委員長 ほかにはいかがですか。

小田原委員 今の話でよくわかったんですが、ほかの教科と比べて、この英語の場合は特に目立つんですけども、非常に判断が多いんですよ。今御説明いただいた部分では何が悪い、何がいいというのはわかったんですが、今エプロンの上にリンゴが乗っていたって、これは、私は構わない、不自然でも何でもないと思いますよ。何でかと言ったら、aを「エイ」と発音しないで、「エア」と発音をする単語を示しているだけの話ですからね。要は何かという問題だろうと思うんです。それで、この報告書のほとんどが判断だというふうに思います。これはこれでいいのかどうか、ほかの教科検討会は数字しか挙げてくれなかったという点もありますから、非常に対照的だというふうに、目立つまとめ方だなと思うんですが、例えば御説明がなかったところでお聞きしますと、三省堂のところの構成及び分量のところ、「写真やドリルなどが過剰に混在している」という報告をしていますけれど、これ、逆に言うと、「豊富で適切だ」という言い方ができるのかなというふうにも思えるんですよ。文章が多過ぎると言うけれど、英語の場合、文章が多くて一向に、私は構わないというふうにも思うんですが、一方で、光村図書のところの構成及び分量を見ると、「文法事項の導入が扱いにくい」とある。これ、どこかほかのところにも、三省堂でしたか、「文法事項の導入が機能的ではない」という話があるんですけども、それは三省堂の場合、トップポイントがあったりすれば、それは大丈夫じゃないのかなと。光村図書の場合、むしろ望ましい導入じゃないのかなと思われないでもないんですが、そういうのはどうなんですか。

島本外国語（英語）調査部会部長 それぞれ教科書6社、どこがいい、どこが悪いというの

は、はっきり言って難しいと思っています。それぞれの教科書の特徴が出ているわけですが、文の多い少ないとか、その課の終わりに出ているアクティビティの内容なんかを含めると、生徒にとって、どのくらいの量が適切かということは、教える教員もそうですが、やはり、使う教科書がどこになるかによって、どう判断していくかということになるかと思っています。一応、調査部会のほうでは、内容、量、そういったことを精査した結果、一応こういうような結果が出たわけですが、

小田原委員　もう1つ教えてほしいのは、トピックの話が出ましたけれども、トピックが、ここに出ているもの以外にも、例えば開隆堂の赤いリボンなどというのはトピックにならないわけですね。そういうふうに見ちゃっていいのかな。学校図書では、ボランティア図鑑はトピックに入っていませんけれども、入らないというふうに見たほうがいいのか、あえて落としてあるのか、そこら辺がわからないのが1点ですね。

それから、アクティビティの問題があったんだけど、補充教材が、アクティビティがあってもいいというふうになるのか、そうじゃないのか、そこら辺を教えてください。

島本外国語（英語）調査部会部長　トピックに入っているか入っていないかということにつきましては、決して抜いたわけではないんですけど、特に必要だと判断したものをトピックとして載せました。

それから、アクティビティですけど、これはやはり、生徒にとって、内容的には多いほうがいいのかなと思います。

石川教育長　トピックに外国のものを扱っていないということで教育出版が挙げられていたけれども、そんなことから、「国際的な視野を広げる点では不十分」という表現になったのかと思いますけれども、教育出版の本文のほうはどうなんですか。

島本外国語（英語）調査部会部長　教科書の内容、3つの学年ですけど、やはり生徒にとってみれば、外国の文化・風習を知ることが非常に大事なことだと思っています。そういう意味では、先ほど言いましたけれども、他社と比べると少ないと思っています。

齋藤委員　小田原先生の質問にちょっと重なるところがあるんですが、私も、トピックの題材については、興味深く見させていただいたんですが、確かにここに書いていないものにも、たくさん、子供たちがすごく興味を示すんじゃないかなというような内容のものが、例えばヤンキースの松井選手のことが出ていたりとか、最新のサッカーの記事などが英文で紹介されていたりとか、十分トピックの題材に入るんじゃないのかなというのが、なぜ入っていない

かったんだらうというようなことは、ちょっと私も疑問だったんですね。あえて何かそういうものはトピックとして、これは入らないのかなと。私が読んでいて興味を持った内容が入っていなかったものですから、1点気になりました。

同じように、例えば光村図書のトピックのところの3年生のところに、「故郷・地球 ディベートしよう」と書いてあるんですが、ディベートについては、教育出版でも、簡単なディベートをしようということで、94ページに取り上げているんですね。これがやはり、片や光村図書のほうにはトピックの題材として取り上げられて、なぜ教育出版のほうからは取り上げられなかったんだらうというのは、素朴な疑問として思っておりますが、何かあったんでしょうか。ちょっとそのあたりのことを教えていただきたいと思います。

島本外国語（英語）調査部会部長　教育出版の場合には、特にそこに挙げましたように、2年での介助犬、3年の地雷撤去の問題だとか、それから、特に日本についてのことを知ろうということが結構多かったのかなと思います。俳句なんか入っているわけですが、やはり、どちらをこの中に入れるかと考えたときに、教育出版のほうは、トピックの題材としては、地雷撤去、俳句のほうがインパクトが強いかないかと思いましたが、光村図書のほうは、このディベートしようというトピックが一番大きなインパクトかなと思っていて、そういうふうにしたわけです。ですから、確かに両方で使われているわけですが、両方使われていることを比較することも大事かなと思いますけれども、よりインパクトの強いほうというふうに、調査委員会では判断いたしました。

石川教育長　細野委員から、もう1点質問がありましたので、お願いします。言語と言語の背景になっている文化をかいま見せてくれる、楽しい教科書はどれかと。日本語に解釈することに留意している教科書は何かということですが、

島本外国語（英語）調査部会部長　言語と言語の背景になっている文化をかいま見せる、楽しいテキストはどれかということですが、やはり、教科書というのは3年間中学校で使うわけですし、どれを選択するかということは、非常に難しいと思っております。ただ単なる楽しいという判断というのは、ちょっと難しいかなと思っております。

それから、日本語に解釈することに留意しているテキストは何かと。これも、正直なところ、どの教科書も該当するという感じがしますが、

小田原委員　関連しますけれど、観点を変えてお尋ねすると、どの教科の教科書もそうなんですけれども、著名・高名な学者や、大学教授や、専門の現場の先生方がつくっている教科

書ですよね。そのときに、4技能のバランスがとれているとかバランスがとれていないというふうに報告がありましたが、あるいは悪いとかね、あるいは発達段階に即しているとは言えないというふうな、そういう評価が出てくるんだけど、私、こういうふうに言ってしまっていていいというふうに、そうとってよろしいんでしょうか。

島本外国語（英語）調査部会部長　それについては、この報告書では、断定した形で書いておりますけれども、やはり調査委員会では、6社を比べた場合に、そのような形で表現せざるを得ないような状況もあったわけです。

小田原委員　さっきの細野委員の質問には、答えられる部分というのは出てくるんじゃないですか。

島本外国語（英語）調査部会部長　6社のうち、どれか1つ採択されるわけですので、先ほども言いましたように、何がいい、何が悪い、あるいはどこの教科書を使いたい、どこの教科書がよくないという判断については、これは非常に難しいことだと思います。ここでは、断定はできないと思っておりますけれども、先ほどの質問なんですけれども、それに答えることは、ちょっと私には難しいと思っております。

齋藤委員　ちょっと細かいことではあるんですが、2社の教科書の巻末のところに、カードが付録みたいな形でついていますよね。こういうものというのは、実際生徒たちの役に立ちますか。

島本外国語（英語）調査部会部長　単語のカードは、たしか3社のほうで出ていたと思うんですけれども、それを使う使わないということは、使う人にもよると思っておりますけれども、でも、教科書にそのように単語のカードの形で出ているということは、子供たちにとっては、非常に役に立つことだと思います。やはり、各教科書に出ているわけですから、それは使うべきだと思います。

齋藤委員　これはお伺いじゃなくて、全体的な私の感想として一言よろしいですか。

名取委員長　はい、結構です。

齋藤委員　やはり英語の調査部会さんのほうは、ほんとうにまじめにというか、ほんとうにいろいろ調べられたんだろうなというようなところの御苦労が非常に読み取れるというか、逆に言いますと、すべての社に対してのデメリットのあたりもしっかり書かれているんですよね。正直に申し上げますと、ほかの教科の報告書を真剣に何度も何度も熟読していくと、おそらく、こことここは選ばないだろうな、こことここあたりなんだろうなというのが少し

わかるところがあるんですね。だから、私正直に申し上げまして、ほんとうに英語に関しては、この報告書を一生懸命読んでも、全くわからなかったです。それがいいのか悪いのか、私わからないんですが、すべてのものに対して、押しなべていいところと悪いところをしっかりと指摘されたという報告書なのかなという感想で、随分私のほうは、調査会の先生方の真意を読み取るのが非常に苦しい報告書でした。それが、もしかしたらいいやり方なのかもしれないけれども、随分苦労して、今、まだちょっと悩んでおりますけれども、そんな感想を一言つけ加えさせていただきます。

名取委員長　感想が出たところで、もうよろしいですか。ほかに御意見、御質疑ございますか。

よろしいですね。どうも御苦労さまでした。

ほかに御質疑もないようであります。

それでは、本日予定しておりました種目の質疑はすべて終了いたしましたので、無記名で各委員の意見を集約したいと思いますのですが、いかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、午前中に配付した用紙に記入をしてください。

それでは、事務局は、記入用紙を回収願います。本日欠席している細野委員の意見については、本日の協議内容を収録したテープを送付し、速やかに回収をしていただきたいと思います。回収したものは、事務局にて厳重保管をお願いしたいと思います。

名取委員長　それでは、報告事項に入ります。

指導室から報告願います。

岡本学校教育部参事　きょうの御報告の内容は、学校教育における八王子市環境教育基本方針につきまして決定いたしましたので、報告するものでございます。

この学校教育における八王子市環境教育基本方針につきましては、本市の八王子市環境基本計画というものがございまして、これが平成16年3月に決定いたしまして、それに基づきまして、昨年度の平成16年11月から4回にわたりまして、検討委員会を設置いたしまして、その結果、まとまったものを5月末に教育長のほうに提出したその内容について、担当の指導主事のほうから報告をさせていただきます。

布宮指導室指導主事　指導主事布宮が報告させていただきます。配付いたしました資料の1ページ目を開いていただきたいと思います。ただいま説明がありました八王子市環境基本計

画に基づきまして、学校教育における八王子市環境教育目標というものを説明いたします。丸で囲まれている1ページ目の部分でございます。環境教育目標を読ませていただきます。

「未来を創る子どもたちが、身近な環境とのふれあいから環境に関心を持ち、様々な体験を通して環境への理解を深め、ふるさと八王子のまちを大切に、水とみどりにあふれた環境を大切にしようとする心を育成し、環境保全やよりよい環境の創造のための問題解決能力を育成する。さらに、それを身近なところから主体的に実践していく行動力を育成し、ひいては地球規模の環境問題を解決していこうとする意欲を持った人を育成することを目標とする。」ということでございます。

この目標を具現化するために、次のページを開いていただければと思います、取り組みの方針といたしまして、3つの柱を立てさせていただきました。1つ目が、一番下でございますけれども、並列になってございます、環境教育の基盤整備でございます。これは、次のページから少し書かせていただいておりますけれども、具体的に言いますと、例えば小・中学校でモデル校を募集し、来年度から先進的な事例を実践していただき、それを全校に広げていこうということを対象としたようなものでございます。

2つ目の柱といたしましては、環境教育情報の充実ということでございます。これにつきましては、5ページから詳しく記載されておりますけれども、具体的に申し上げますと、1つは、環境教育に関する副読本をさらに充実させようというようなことでございます。このようなものが柱になっております。

そして、3つ目の柱、地域との連携による環境教育の充実、これは7ページから、詳しく載せさせていただいておりますが、その1つの柱として、人材活用の人材バンクの整備等を挙げさせていただいております。

このように、3つの柱を軸に今後展開していき、この八王子市環境教育目標を達成していきたいと考えております。

説明は、以上でございます。

名取委員長　ただいま指導室の報告は終わりました。

本件について御質疑はございませんか。

齋藤委員　私の記憶のほうがおかしいのであるならば御指摘いただきたいんですが、常々思うんですけれども、何を議案と言い、何を協議事項と言い、何を報告事項とするのかというところあたりでちょっと悩むんですけれども、今のこの話というのは、報告事項として報告

されるもので、ということは、どう判断すればいいのかがわからないんですね。協議事項ではないわけですね。どういうふうに動いていって、今後どういうふうになっていくのか、教育委員会の定例会の場で、大変大切な内容だと思うんですね、お話を聞いていて。過去に、もう随分話したのか、ちょっと私の記憶が飛んじゃっているのであるならば御容赦いただきたいんですが、これ、報告事項なんですか。ちょっと私、そのあたりがよく理解できません。

小田原委員　これは報告なんですよ。なぜかという、教育長決裁が終わっているわけだから、これはこういうふう処理したので、御了解いただきたいと、そういう報告なんですよ。ただ、やり方としてはいかがなものかということになるだろうと、この出し方についてですね。今、齋藤さんがお話しのように、非常に大事なことで、今教科書をやってきたって、環境について特に項目として触れていないというのは少ないわけですよ。そのくらい各教科でやっているわけだし、当然、道徳だとか、総合的な学習の時間では、この環境というのは、大きなテーマになる話というか、材料であるべきなんですよ。ところが、こうやってやらなきゃいけないのはなぜかという話をし、そして、こういう経緯があってやってきたのということ、やはり言わなきゃいけないんじゃないかな。

布宮指導室指導主事　失礼いたしました。先ほど指導室長のほうから説明がありました八王子市環境基本計画について、私のほうから、この説明に入る前に少し触れなくてはいけないところを落としてしまったために、少し理解できなかったところがあると思います。申しわけございません。もう一度その部分を補足して説明させていただきます。

これは、平成16年の3月に八王子市で設定されたものでございます。八王子市環境基本計画というものでございます。これをひもといってみますと、この中に、環境問題に対する確かな対応ということで、5つの重点取り組みということが示されております。5つというのは、1つ目が水、2つ目が緑、3つ目がごみ・資源、4つ目が大気、そして5つ目が教育・学習という5つが示されております。その5つに対して、一つ一つ重点取り組み1から重点取り組み5までに対して、具体的にどのような施策を実施していくかというスケジュールが計画的にされております。その中で、私ども教育に関するところは、重点取り組み5、教育・学習という部分でございまして、この教育・学習というところでは、重点取り組み、このようになっております。重点取り組み5、「学校や地域での環境教育、環境学習を推進するとともに、市民・事業者と協働した環境保全活動を充実する」というふうな題になってございまして、具体的にこの中で、環境教育の拡充、人材の育成、情報の提供というものを柱にして、具体

的な実施スケジュールが示されております。これをもとに、本市八王子市における環境教育基本方針を設定していくべきであろうということで、先ほど申し上げました検討委員会を設置し、この17年1月31日に座長が教育長へ提出したという流れでございます。

以上でございます。

齋藤委員　でも、このあたりで時間をとっているのはちょっともったいないとは思いますが、今度の御説明であるならば、私、平成15年の10月に教育委員になりましたが、当然その経緯の中で、学校教育における八王子市の環境教育目標を立てていく間に、どこかで私聞き落としているのかどうか分かりませんが、当然何度か審議があったり、協議したりというものがあってもよかったんじゃないかなというふうには、率直な感想として持ちます。もう既に教育長の裁決で行った報告であるならば、今さら言ってもしょうがないんですが、やはり、こういう目標だとか、事業を起こすときには、途中経過というか、経緯というか、お知らせいただけたらと思うんですが、私が聞き落としているんでしょうか。

岡本学校教育部参事　申しわけありません、昨年11月に検討委員会を立ち上げるという段階で、これまで私も、この定例会に何度か出させていただいたことが当然ありますので、その中で、当然、検討委員会がこういうふうに立ち上がるということ、それから、設置要綱はこのようになっていると、それから、委員については、このようなメンバーが委員になって、当面このような方向で進めていきたいと、そのことを踏まえながら、第1回目の検討会に臨みたいということ、それから、当然ながら、途中段階の報告も含めてすべきだったというようなことを、改めて反省しているところでございます。

小田原委員　だから、環境会議に教育のほうからだれが出ていたのかという問題はあると思うんですが、その時点で、学校教育のほうでも、重点に取り上げられているわけだから、教育で考えなきゃいけないところを、我々も、もっとこの場で取り上げてやるべきだったんだろうと思うんですよ。ただ、それをやらなかったのは総合的な学習にしても、あるいは各学校の校内研究の中でも、環境というのはもう既にあちこちで取り上げているという実態があるというふうな認識を、私は持っていたんですよ。だから、あえてここまでやらなくても、十分確認していることだからというふうに思っていたんですが、今こうやって取り上げて示されてみると、これはまだまだ不十分であったなというふうにも思います。つまり、モデル校を設置しなきゃならないというのは、ちょっとずれているんじゃないかなというふうに思いますよ。モデル校はもう済んでいる、あるいは校内研究のテーマというものは飾り

的な部分というふうにも感じているのもあるんで、アドバルーンは上げているけれども、中身はどうかという心配はありますよ。だけど、既にあちこちでやっている、そこを基盤としてどう進めていくか、日本人は水と平和はただで手に入れているなんていう話は随分昔の話なんだけれども、そういう、昔とはいえ、そう遠くない話が、今、水も平和も、金出しても買えないんじゃないかという時代になっちゃっているわけですよ。そうすると、じゃあ、どうするのかと、これはやはり真剣に考えなきゃいけないわけで、今教科書を見てきて、こんなにいろいろなところで環境教育を扱っているにもかかわらず、なおかつこれを進めなきゃいけないというのは、やっぱり深刻に考えていかなきゃいけないだろうと思いますね。

名取委員長 ありがとうございました。

 ということで、よろしいですね。

岡本学校教育部参事 一応、この基本方針につきましては、平成17年度に入って公表をするということを前提に、昨年度の後半、検討会を持ちまして、今後これを正式に市民の方等に公表していくと、そういう中でございますので、文言等で若干ミスが、今御指摘もあるようでございますので、それらも踏まえた上で、よりよいものにしていきたいというふうに考えているところでございます。

それから、今、小田原委員のほうからございましたように、学校のほうでは、各教科、それから総合等も含めまして、実際に環境教育についての取り組み、特色ある教育活動の中でも随分やっていただいております。ここにございます座長、副座長、それから小学校、中学校の教員も、実際は既にこれまでさまざまな実践を積んでいる方々をお願いをして、八王子の実態に合った基本方針を大きくくりでつくっていただいたわけでございますので、これをさらに実効あるものにしていくために、さらにまた、学校と連携してやっていきたいというふうに思っています。

また、モデル校につきましても、これも既に実践されている学校もありますし、これからこの方針を受けて、新たに進めたいという学校もございますので、それらについて、改めて今情報収集をして、今年度から来年度に向けてのモデル校の指定について、今準備を進めたいというふうに考えているところでございます。

 以上です。

名取委員長 ということで、よろしいですね。よろしく申し上げます。

ほかに何か報告する事項等ございますか。

事務局 特にございません。

齋藤委員 この2週にわたって教科書採択でたくさんの時間を使ってしまって、本来、教育委員会って、とまっては絶対にいけない、引き続き継続していかなきゃならない問題というのは絶対にあると思うんですね。ただ、やはり、体力にも限界がありまして、この2週にわたってほんとうに教科書のことでも時間を費やして、いっぱいいっぱい情勢であることは十分わかっておりますので。ただ、とまってはいけない問題が必ずありますので、次回、また、8月10日のときには、今まで宿題になっていた問題がどの程度、どういうふうに進んでいっている現状なのかということはお伺いしたいと思いますので、ほんとうに事務局の方々は大変だと思いますが、そのときには、現状をしっかりと答えていただきたいというふうにも思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

名取委員長 ということで、よろしくお願い致します。

それでは、ほかにないようでありますので、以上で本定例会の議事日程はすべて終了いたしました。

これをもちまして、本定例会を終了いたします。ありがとうございました。

【午後2時54分閉会】